週刊 YEAR BOOK

1945
昭和20年

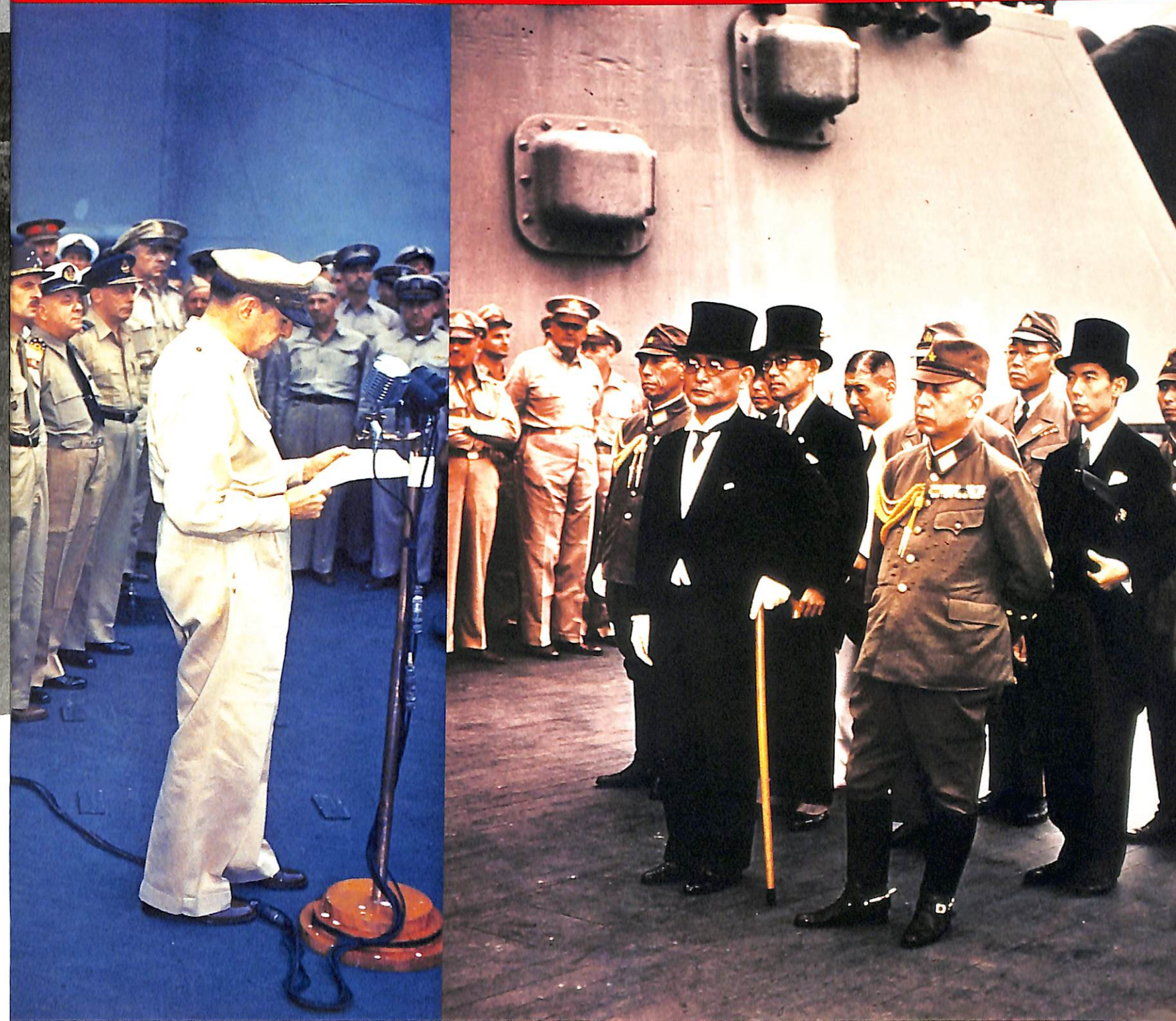
# 日録20世紀

3|4
平成9年3月4日発行
(毎週1回発行)第1巻第3号
¥550
講談社

# マッカーサーの2000日

広島・長崎に原爆！死者31万人の地獄絵
再現ドキュメント「8月15日の天皇と国民」
ポツダム宣言と米ソ冷戦の始まり

# 5大改革指令を柱に
# マッカーサーの“日本大改造”2000日

8月15日、真夏日の中、日本はポツダム宣言を受諾、無条件降伏した。原爆投下、終戦、
そしてその後の占領という国家の苦渋にみちた姿は、まさに戦後の始まりでもあった。
悲喜こもごもの思いを抱きながら、「リンゴの唄」を背に日本は再スタートを切った。

▲9月2日、戦艦「ミズーリ号」上で降伏文書調印式が行われた。連合国からはマッカーサーをはじめ、交戦国9ヵ国の代表、日本は政府を代表して重光葵が参加。 共同通信社（左） WWP

◎表紙　8月30日、厚木飛行場に降り立った連合軍最高司令官・マッカーサー元帥。 毎日新聞社



●マッカーサーと天皇は、9月27日にアメリカ大使館で会見した。写真はその時に撮影されたものである。

毎日新聞社

## 怯えと誤解、占領軍を迎えた敗戦国の戸惑い

日本のポツダム宣言の受諾から、わずか二週間。マッカーサー元帥は、昭和二〇年八月三〇日午後二時五分、厚木（あつぎ）飛行場に降り立った。そして米国陸軍の一二〇〇名（第八軍）を率いて厚木から横浜に向かった。

原爆投下がなければ、本土決戦となり、一〇〇万人の米国兵が犠牲になるだろう（原爆を正当化するための過大な数字という説もある）と想定されていた日本本土への乗りこみである。愛機「バターン号」を降り立つ時に示したマッカーサーの傲然（ごうぜん）たる姿は、彼一流のポーズだけではなく、「日本人は降伏を受け入れる」という確信を、身をもって示したとも解釈できよう。

一方、日本人は、マッカーサーを頂点とする占領軍をどう受けとめたか。「進駐後の心構え」（「朝日新聞」昭和二〇年八月二三日）という新聞記事によると、「婦女子は外国軍人に隙を見せるようなことをしてはいけない」「淫（みだ）らな服装はせぬこと」と、端的に言えば暴行されないよう注意しろ、と言っているわけだ。こうした怯（おび）えは、性の防波堤と称し、東京・大森に占領軍向け特殊慰安施設第一号「小町園（こまちえん）」が、内務省の指令によって、手回しよく八月二七日には設置されるという事態に結びつく。しかし慰安施設は非民主的だということで、間もなく閉鎖される。

日本の非軍事化と民主化という大きな目標を掲げて進駐してきたGHQ（連合国総司令部）に対して、慰安施設の提供

## 5大改革指令を柱に マッカーサーの〝日本大改造〟2000日

### GHQのおもな対日改革指令

▶上院で証言するマ元帥　毎日新聞社

占領初期に出されたＧＨＱの日本改革の内容を要約すると、民主的平和国家の建設という一点にしぼられる。

**昭和20年**

●人権指令（10月4日）　治安維持法などの弾圧立法の廃止、政治犯の釈放、特高警察職員・内務大臣などの罷免、天皇制批判の自由などが指令される。

●５大改革指令（10月11日）　①婦人解放　②労働組合の助長　③教育の自由化、民主化　④秘密的弾圧機構の廃止　⑤経済機構の民主化、を優先的に実施するように指令。

●農地解放指令（12月9日）　不在地主の土地の小作人への売却、不耕作地主の土地の買い上げなどを立案するよう日本側に指令。しかし地主などの抵抗も強く、このため昭和21年6月28日、第二次改革指令（日本政府宛指令）が行われた。この結果、小作地の約80パーセントが解放された。

●衆議院議員選挙法の改正公布（12月17日）　婦人の参政権が、憲政史上初めて認められる。

**昭和21年**

●公職追放令（1月4日）　軍国主義的・超国家主義的政治指導者の立候補を制限し、政界だけにとどまらず、官界、財界、言論界、労働・教育の世界にも適用される。

●日本国憲法の公布（11月3日）　憲法の草案は日本からの自発的提案という形をGHQでは求めていた。しかし日本側の憲法問題調査委員会が提出した案はGHQに拒否され、内密のうちにGHQ内で作成された案が日本政府に提示された。

あると位置づけていたのである（『GHQ』竹前栄治）。

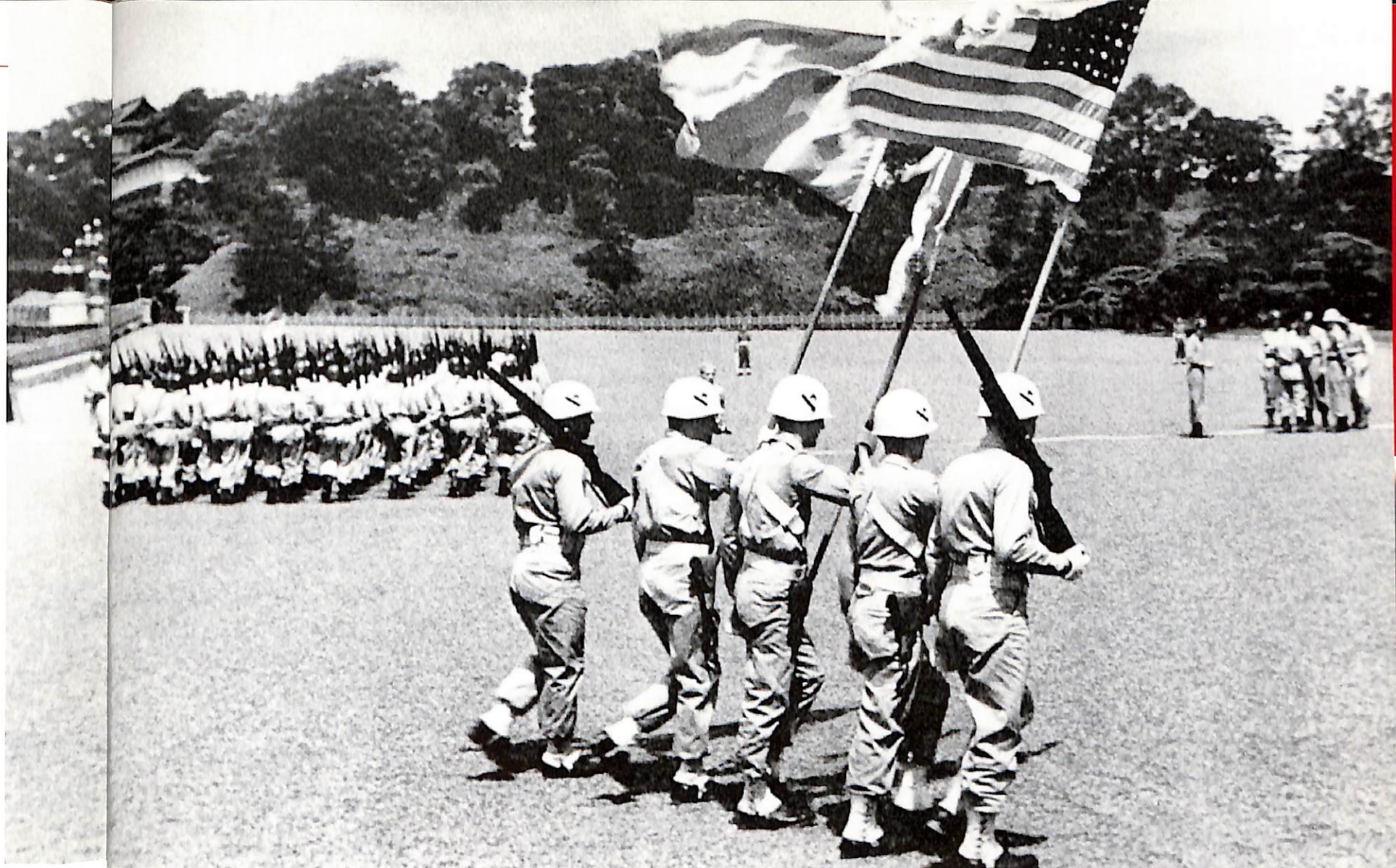
研究は各レベルでさらに検討が加えられたが、おおむね日本派の意見が採用されていった。昭和二〇年四月一九日に、国務・陸軍・海軍三省調整委員会は対日占領政策基本方針を作成した。その内容は、日本の非軍事化、民主化、自由主義化を求め、占領行政は直接軍政を敷くのではなく、日本の既存の行政機関をそのまま利用して行うとされた。この方針の中で、細かなことではあるが、日本への食糧などの援助について、近隣諸国の生活水準を上回ってはならないと、注意を喚起しているのが目をひく。一度抜いた牙がすぐに生え変わるようなことはしない、という意味である。

終戦当時の極東アジアを眺め、日本をジグソーパズルのキットにたとえるなら、民主化と適度の工業化をし、沖縄と千島を削り取った小ぶりなキットとして、極東アジアにはめこもうというのが米国の真意であった。

「現代文明の基準ではかった場合には、彼らは、我々が四五歳であるのに対して、一二歳の少年のようなものでしょう」（一九五一年、米国議会上院・外交合同委員会聴聞会での証言）

とマッカーサーは占領下の日本について言っている。ところが、一二歳の少年にほどこした占領政策は大成功をおさめ、さらに四〇年後には米国と深刻な経済摩擦を起こすような経済大国へと成長したのだから、歴史は皮肉である。

▼昭和26年4月11日、マッカーサーは最高司令官を罷免される。羽田空港に向かう元帥を見送るため、20万人が沿道を埋めた。また、GHQから「天皇が羽田へ見送りにきてほしい」との要請があったが、宮内庁式部長官・松平康昌が拒否し、この日、天皇は羽田へ姿を見せなかった。

アメリカ国防総省

▲9月17日にＧＨＱの本部を横浜から東京のお堀端にある第一生命（相互）ビルに移した。皇居からはまさに目と鼻の先。第一生命ビルはマッカーサーの牙城となる。　毎日新聞社

という日本人のとっさの反応は、占領軍の本質が見えていないということを証明しているようだ。

事実、日本政府が懇願（こんがん）する形での「東京には占領軍を進駐させないでほしい」という申し入れも、あっさり拒否され、既定の方針どおり九月八日には約八〇〇〇人の将兵が都心に進駐している。以後、日本政府の現実の認識の甘さが、次々に露呈していく。

それを象徴するのが、昭和二〇年九月二七日のマッカーサーと天皇との会見であり、その記念写真の発表の経緯（けいい）であろう。腰に手をあてた軍服姿のマッカーサー、横に立つ黒いモーニングに身を包んだ天皇。昭和天皇の背丈は二〇センチは低く見える。歌人・斎藤茂吉は日記に「ウヌ！　マッカーサーノ野郎」と書きこんでいた。たしかにこの写真を一目見ただけで、「日本の真の支配者が誰であるのかを思い知らされた」（『マッカーサーの二千日』袖井林二郎）のである。

写真を掲載した九月二九日の新聞を、時の山崎内相は不敬だとして発売禁止にする。ところが、GHQはただちにこの決定を撤回させた。

当時の日本人は、この写真を見て涙した。しかし、この涙と痛みが日本の民主化への第一番目のハードルだったと言える。

### 「日本の牙を抜け」がマッカーサーの真意

日本を占領した米国の真意を知るには、占領計画のプロセスを見るとよくわかる。米国政府は開戦の翌年、昭和一七年の八月から、すでに戦後の対日政策を研究するための「東アジア研究班」を設置していた。興味深いのは、日本占領についての考え方に二つのグループがあったということだ。

それは将来の極東アジアを考える時、中国を中心に考えるか、日本を中心に考えるかであり、下世話（げせわ）に言えば、「日本を徹底的に叩きのめしておくか、ただちに復興させるか」の違いでもあった。

中国派は中国の資本主義化を強めて、米国のよき市場にしようと考え、日本派は、日本の潜在的工業力を高く評価し、アジアの安定には日本の復興は不可欠で

▶占領軍は年末までに四三万人が上陸。全国の県や市の行政組織と接触。写真は長崎市長に説明を受けているＭＰ。

アメリカ国防総省

# 八月六日、原爆投下
# 熱線、爆風、放射線による死者一四万人！
# 「光る物体」に襲われた広島の地獄絵

●原爆が投下された市内の中心部から立ちのぼる雲の柱。異様な色を放ちながら雲は約6000メートル上空まで上昇した。投下直後、米軍の偵察機が撮影したもの。

共同通信社

広島は西日本第一の軍都。東京をはじめ全国各地の主要都市が米軍機の空襲を受ける中、その時まで無傷であった。しかし八月六日、三〇万市民の不安は現実のものとなった。戦争のただ中にあったとはいえ、それはあまりにも大きな犠牲と代償をともなうものであった。

## 光る物体の熱線、熱風で一瞬のうちに全市が廃墟

八月六日午前八時一五分、テニアン島を飛び立ったアメリカの原爆搭載機Ｂ29「エノラ・ゲイ」から投下された一個の爆弾が、広島市の上空約六〇〇メートルで炸裂した。この日、広島は、気温二六・七度、湿度八〇パーセント、北の風、風速〇・八メートル、うす曇り（広島管区気象台）、蒸し暑いいつもの夏の朝であった。

午前七時九分、広島県下に発令された警戒警報は七時三一分には解除、陸軍の各機関に配属された兵士たちはそれぞれの任務につき、軍需工場や勤労奉仕隊では一日の作業が始まろうとしていた。

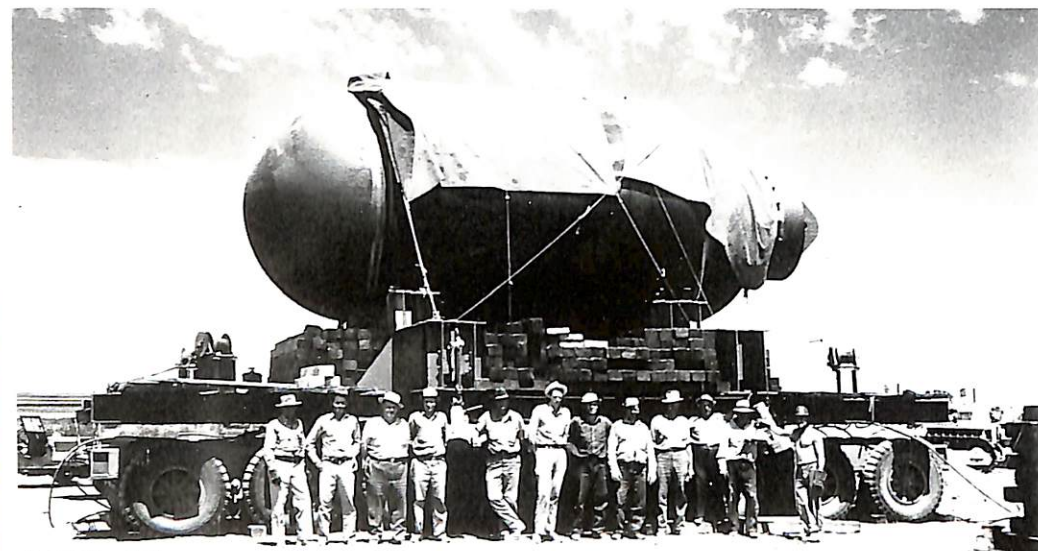
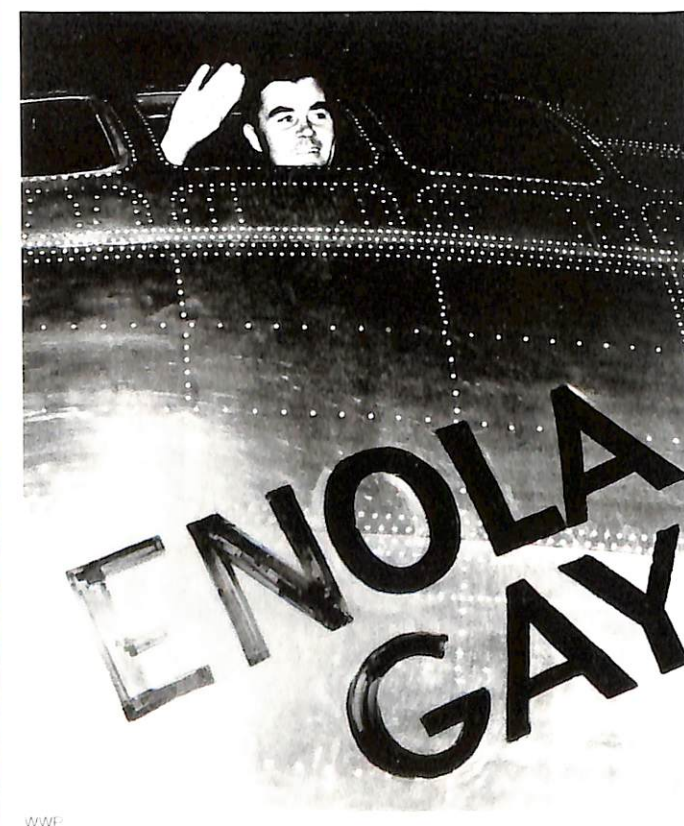
午前八時九分、松永防空監視哨は、市の西北方向へ進行中の米軍大型機三機を発見、八時一四分には中野探照灯台で大型機の爆音を聴取した（『原子爆弾』仁科記念財団編）。

その矢先のことであった。爆心から東南東五・三キロ付近で爆発の瞬間を目撃した記録は、「ピカッと強烈に光った物体が、満月位の大きさで透明なオレンヂ色、そのまわりに輝く光の輪が次々と八つほどできた。外側の輪が地上に接した瞬間、大きな火柱が立ちのぼる、それを中心に火災がひろがると見た瞬間、光る物体は消え去った。そして爆発音が響き、熱風が襲ってきた」（『広島原爆戦災誌』第三巻、山本稔）とその驚きを記している。

この光る物体は何を引き起こしたのか。その光景はまさに地獄絵そのものだった。数々の証言はその惨状を今に伝えている。

「背中に火がついて燃えているのに一生懸命走って逃げる一〇歳位の生徒、〝背中が燃えているよ〟と注意してやったが、振り向きもしないで形相きびしく去った。（略）片足はハダシ、ゲートルをひきずりながらのご主人、水ぶくれになった片目、しるが出ている。奥さん、破れた真黒のモンペ姿。子供はどうしただろうか、助かったろうか、後をふりむきふりむき逃げて来た。誰の口からも、これは大変だ、早く市外へ逃げよう。連れていってくれと足の不自由な老人の叫び。顔全部がやけどして水ぶくれのように腫れて、目が見えないようになった兵隊さんが、水をくれ水をくれと叫んでい

岸田貢宜

▲被爆の翌日午後、市の本通りから見た爆心地付近。人影はなく、遠方に産業奨励館（原爆ドーム）が見える。

インペリアル・プレス

▲長崎に投下された原子爆弾「ファットマン」。プルトニウム爆弾で、直径1.52メートル、長さ3.25メートル、重さ4.5トン、ＴＮＴ火薬22キロトンに相当。ニューメキシコでの撮影。

WWP

◀空の要塞「エノラ・ゲイ」のコックピットから手を振るポール・ティベッツ機長。B29は全長30メートル、最高時速585キロ、航続距離9350キロ。

8月6日、原爆投下

# 熱線、爆風、放射線による死者14万人！「光る物体」に襲われた広島の地獄絵

た。坐ったまま片手に空の水筒をもっていた」

これは爆心地から二キロ離れた場所で被爆した当時一八歳の少年の手記である。

熱線と熱風により、広島は七時間にもおよんで火の海と化した。午後四時、火災は弱まり、市中では硝煙と熱気が立ちこめる中、本格的な救援活動が始まった。しかし、死体や重傷者を学校や病院などの救護所に収容することがやっとだった。

## 広島に続いて長崎にも原爆はなぜ落とされた

翌々日八日の「朝日新聞」は大本営発表（七日一五時三〇分）として、「一、昨六日広島市は敵B29少数機の攻撃により相当の被害を生じたり。二、敵は右攻撃に新型爆弾を使用せるものの如き。詳細目下調査中なり」と報じただけであった。

この爆弾が公式に「原子爆弾」と判定されたのは八月一〇日、大本営調査団による陸海軍合同の研究会議でのことだった。

原子爆弾「リトル・ボーイ」はウラニウム爆弾で、直径七一センチ、長さ三・〇五メートル、重さ四トン、TNT火薬一二・五キロトンに相当。被害は甚大なものだった。後になって、昭和五一年、国連事務総長には、熱線、爆風、放射線などによる死者の数は、一四万人（誤差一万人）と報告された。

原爆はなぜ落とされたのか。それはポツダム宣言の受諾を拒否し、戦争を続行しようとした日本を無条件降伏に追いこみ、ソ連参戦の影響力を最小限に抑えるためであった。また、「一〇万以上の労力と莫大な量の資材、二年半の歳月と二〇五億ドルの費用」（『原爆はこうしてつくられた』）が最終段階を迎え、アメリカはその成果をドイツ降伏後の日本で試したという点も否定できない。

そして八月九日――二発目の原子爆弾が長崎に投下され、死者約七万人の悲劇が繰り返されたのである。

▲8月10日午後、長崎の爆心地から北方3.6キロ、長崎本線道ノ尾駅前で治療を待つ母子。子どもはその後死亡。　山端庸介

▶長崎の爆心地近くで全身焼け焦げた少年の体が瓦礫の中にあった。八月一〇日午後二時頃撮影。　山端庸介



女たちの肖像

# 農婦から教祖へ「踊る宗教」北村サヨの予言

稲葉真弓

昭和二〇年七月二二日、戦局が極度に悪化し、本土決戦間近かと噂される中、山口県田布施町で一人の女が「天照皇大神宮教」を掲げ、奇妙な辻説法を始めた。

「神様が、宮城だけ残し日本全土を焼き払うと言われておる」「もうすぐ末法の世は終わり、神のみ国の夜明けが来る」

説法を始めたのは、当時四五歳だった北村サヨ。後に評論家の大宅壮一は「天照皇大神宮教」を「踊る宗教」と名づけたが、サヨはその教祖である。

最初、村の人々はサヨが気がふれたかと思ったが、彼女の予言は当たった。八月初めから日本各地で大空襲が続き、八月六日ついに広島に原爆投下、八月一五日敗戦。サヨの予言した「焼き払い」と「夜明け」はたしかに来たのである。

昭和二一年、サヨは上京。あちこちの焼け跡に立って「蛆の乞食よ目を覚ませ。天の岩戸は開けられた。早く真人間に立ち帰れ」と朗々たる声で説いた。当時の社会は、飢えと不安と混乱の中で方向を見失っていた。そこに「目を覚ませ」「我を捨てよ」と説きながら歌い踊る「神様」が出現したのだから、サヨはたちまち「世直しの神様」として世に知られることになった。

サヨに「何か」が乗り移ったのは、昭和一九年五月のことである。二年前、北村家の離れが火事で焼失。放火犯を探すために氏神様に丑の刻参りを続けていたところ突然何者かが肚の中に入り、サヨの口を借りて命令するようになったという。

サヨは尋常小学校を出たあと、家の農作業の手伝いをしながら裁縫などを学び、二〇歳で北村家に嫁いだ。以後二十数年間、ただ黙々と田畑を耕してきたのだが、その無名の農婦に、サヨの言うところの「宇宙絶対神」が舞い降りたのである。

今どきの宗教と違い、賽銭や寄付金を取らない。にぎり飯だけを持ってどこへでも気軽に布教に出かけるサヨにひかれた同志（信者）の数は、日本に限らず世界中に広がっていった。このためサヨは五度にわたる世界巡教の旅に出たが、三二カ国をまわった昭和四〇年以降体調を崩し、四二年一二月二八日他界した。後継者を孫娘と決めたあとの死であった。

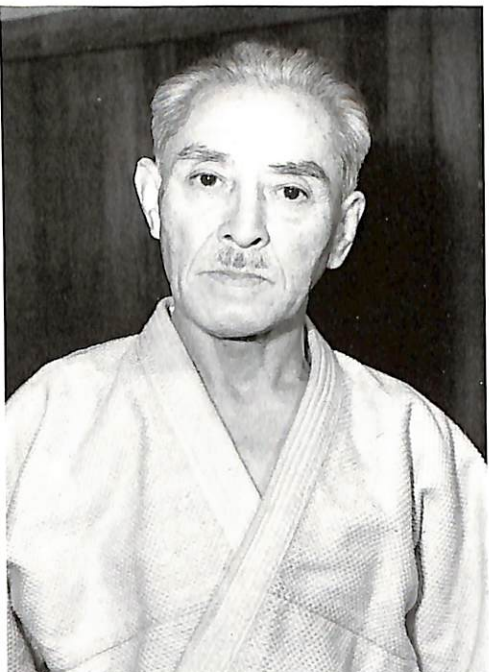
ちなみに現在の同志数は、海外を含め約六三万人だという。

勝者・敗者

# 空気投げの妙技冴えて三船久蔵、「最後の一〇段」に

阿部珠樹

五月二五日、講道館は、六二歳の九段、三船久蔵を一〇段に認定した。同じ年の三月には、三船の最大のライバルといわれた徳三宝の死に際し、九段を追贈している。太平洋戦争の戦局が悪化する中で、武道を奨励し、国民の士気を鼓舞しようという意図がのぞける措置ではあったが、そうした背景を抜きにしても、三船は十分に最高位である一〇段を受ける資格のある柔道家だった。

明治一六年、岩手県の久慈町に生まれた三船は、仙台二中に入学すると同時に柔道を始め、中学時代に早くも仙台二高との対抗試合で勝ちをおさめるなど、才能を発揮する。

その後、二一歳で初段となり、慶応大学理財科を中退した後は、柔道一筋の生活に入る。二五歳で五段。多い時には東大、明大、日大など一一もの学校の柔道師範をつとめたこともあった。

実戦における三船の全盛期は大正時代で、生涯の敗北はわずかに二度。動きを読み、相手が力を入れた方向に腕だけで投げ飛ばす「空気投げ（隅返し）」は三船だけが使うことのできる技といわれた。

昭和九年、天覧試合で田畑昇太郎八段と模範乱取りを行う。柔道家として当時最高の名誉といわれたこの試合、三船は肺炎から四〇度近い熱があったが、「欠場しては田畑君に失礼にあたる」と注射を打って出場し、昭和天皇をもうならせる空気投げの妙技を見せたといわれる。

その二年後、九段に昇進。敗戦間際の一〇段への昇進は、めざましい業績を考えれば、むしろ遅過ぎる措置だった。

三船の一〇段昇進のあと、講道館は一〇段位を廃止する。三船のような強さ、独創性、精神力を兼ね備えた理想的な柔道家は、もう現れないという判断があったのかもしれない。「最後の一〇段」三船久蔵は、東京オリンピックで国際化をはたした柔道の姿を見届け、昭和四〇年、八一歳で世を去った。

## ニュース・ファイル

# 1945

## フォト＋日録で再現する365日

米軍の本土空襲は無差別絨毯爆撃に変わり、大都市市街地が次々に焼け野原となった。フィリピン、硫黄島、沖縄を失い、そして原爆。日本はついに無条件降伏した。連合軍の占領下におかれた日本は、軍国主義体制の徹底的解体が進められてゆく。

◀無差別絨毯爆撃の恐怖（6月5日）焼夷弾によるその最初の標的となったのは神戸市だった。3月17日、5月11日、この6月5日の3回、300機以上のB29爆撃機の大編隊が飛来し、神戸市は、ほぼ壊滅した。

オリオン・プレス



菊池俊吉

▲▶銀座空襲、校舎無残（1月27日）B29爆撃機70機が白昼の銀座、京橋、丸の内に大量の爆弾を投下、集中的に被爆した銀座4丁目付近は火の海となり、必死の消火が続いた（上）。また、B29が投下した250キロ爆弾は泰明国民学校を破壊、女子教職員4名の命を奪い（右）、銀座空襲の死者は540人にも達した。

菊池俊吉

PPS

◀強制収容所、解放（1月）連合軍によって「ユダヤ人絶滅工場」と言われた収容所が次々に解放された。写真は喜びのドイツのダッハウ収容所。縞模様の服は火刑を宣告された印である。

毎日新聞社

▲米軍、ルソン島のリンガエン湾に上陸（1月9日）この日早朝、湾中央部に約800隻が集結、前年12月中旬から持久戦の準備を進めていた山下奉文大将指揮の第14方面軍約13万との決戦が始まった。

共同通信社

▶戦費調達に福券抽選（1月19日）個人戦時債券として前年に続き2回目の売り出し。抽選器を回すのは松隈大蔵次官。額面10円で、1等5万円、2等5000円の賞金がもらえた。

川上今朝太郎

▼空襲を逃れて疎開（1月）東京の空襲は、20年に入って連日続いた。都民は親戚や縁故を頼って地方に疎開した。写真は長野市にやって来た人々。

### 昭和20年1月

1（月）●東京逓信局、都内に初の簡易型電話所設置。
2（火）●国鉄吾妻線の渋川—長野原間が開通する。
3（水）●米艦載機五〇〇機、台湾・沖縄に来襲する。●元旦の初詣客は例年の四割減、と新聞に。
4（木）●軍需省、プラチナ精製の功で三社を表彰する。
5（金）●政府、所得税などの税率引き上げを発表。
6（土）●米艦隊、ルソン島リンガエン湾に侵入する。
7（日）●大政翼賛会、小磯首相に強力な政治をと要望。
8（月）●大審院、日雇い労働者の闇賃金取締りを指示。●仙台鉄道局、東京に向け木炭専用列車を編成。
9（火）●米軍、ルソン島に上陸開始。戦端が開かれる。
10（水）●警視庁、各署に防空資材点検で戸口調査指示。
11（木）●岩手県の大川目国民学校の生徒が空襲罹災者に贈った煎り豆一俵、東京に到着。
12（金）●回天特別攻撃隊、太平洋各所で停泊中の米艦船を攻撃する（第二次玄作戦）。
13（土）●東海地方に大地震（三河大地震）。死者一九六一名、全半壊一万七〇〇〇戸（報道されず）。
14（日）●B29七三機、名古屋爆撃。伊勢神宮も被弾。
15（月）●外務省、在米抑留邦人一六五三名の氏名発表。
16（火）●「科学技術の戦力化」で、学術研究会議を改革。●B29一機、京都を初空襲する。死者四一名。
17（水）●第四航空軍司令官・富永恭次、独断で司令所をフィリピンから台湾へ移動する。●ソ連軍、ワルシャワを解放。
18（木）●大日本婦人会東京支部、三人以上の航空要員を育てた母親二二名を表彰する。
19（金）●イタリア、対日同盟を破棄。
20（土）●船員動員令・船舶待遇職員令を公布。
21（日）●小磯首相、施政方針演説で「国体護持」を強調。
22（月）●農商省、鋳掛け業者を動員して全世帯の鍋釜一個ずつを年内に修理するように通達。
23（火）●都庁で古紙とちり紙交換の店を開く。
24（水）●英機一二〇機、スマトラのパレンバンを攻撃。
25（木）●最高戦争指導会議、決戦非常措置要綱を決定。●文部省、大日本教化報国会を結成。
26（金）●警視庁、銭湯の男女入浴日を分けるよう指示。
27（土）●連合軍のレド公路（インド—昆明間）が全通。●B29七〇機、銀座を爆撃。死者五四〇人。
28（日）●ビルマで爆雷抱え突入した朝鮮人兵に初感状。
29（月）●トルコ、対日断交（2月23日、宣戦布告）。
30（火）●造船材となった沼津千本松原の松、今度は残った根を松根油の原料に掘る、と新聞に。
31（水）●沖縄第三二軍、県民男子の第二次召集を実施。

毎日新聞社

▲米軍、硫黄島で恐怖の釘付け(2月19日)上陸後、小高い摺鉢山からの重砲撃を受けて、3時間半も立ち往生、死者2420人を出す大苦戦となった。

菊池俊吉

▶B29一般公開(2月1日)日本の戦闘機の体当たり攻撃を受けて墜落した機体を、東京の日比谷公園に20日間展示。「空の超要塞」に驚きの声があがった。

▼マニラのバンザイ突撃(2月25日)マニラの日本軍は「一人よく十人を倒す」戦法でのぞんだ。写真は城内ゼネラル・ルナ通りで突撃した9人の日本兵。

アメリカ国防総省

PPS

▲廃墟になったドレスデン(2月13日)英空軍の4日間にわたる徹底した無差別爆撃で、宮殿や教会など18世紀バロック建築の建ち並ぶ街は一変、瓦礫と化した。

▼松の根からガソリン(2月8日)農商省はこの月、航空機燃料の不足を補うために松根油課を新設、農村では写真のような光景が見られるようになった。

共同通信社

毎日新聞社

▲空から大量のビラ(2月16日)米軍はこの日から、各地で伝単(宣伝ビラ)を大量にまき始めた。写真は米国在住の日系2世が書いた無条件降伏を呼びかける伝単。

## 昭和20年2月

1(木)●「富士山は東京空襲の目印」と米海軍誌に掲載。●東京日比谷公園で、B29撃墜展覧会を開く。

2(金)●閣議、新聞統制機関の日本新聞会解散を決定。●科学技術者に喜美餅の配給を加増、と新聞に。

3(土)●沖縄県の学徒動員強化。通信などの特訓開始。

4(日)●米英ソ首脳、ヤルタ会談を開く(~11日)。

5(月)●B29迎撃ロケット「秋水」配備予定の部隊新設。●大蔵省、塩不足解消は自家製造でと議会答弁。

6(火)●東京杉並区で浴槽の出入りに号令をかける銭湯が「号令風呂」として評判、と新聞に。

7(水)●沖縄県、平時行政から戦時行政へ切り替える。●中学進学のため帰京する疎開学童の第一陣八六名が、福島から東京へ出発する。

8(木)●農商省、松根油課を新設。航空機燃料増産へ。

9(金)●米英、マルタ島で日本本土侵攻計画を検討。

10(土)●B29、群馬県太田町の中島飛行機工場を空襲。

11(日)●皇后の短歌「つき(次)の世を」に曲をつけ放送。

12(月)●英軍と第一五軍、ビルマでイラワジ会戦。●ヤルタ会談の共同コミュニケを発表する。

13(火)●閣議、二〇年度貯蓄目標を六〇〇億円と決定。●沼津署、白金・ダイヤ買い占めの一〇名送検。

14(水)●近衛文麿、天皇に「敗戦必至」と上奏文。

15(木)●沖縄第三二軍、「一人十殺」の戦闘指針を通達。

16(金)●米艦載機一二〇〇機、関東・東海地方の各地を攻撃。この攻撃で初めて宣伝ビラを散布。●運輸通信省、京浜地区通過の乗車券を発売停止。

17(土)●帝国発明協会、入賞一六一件を表彰する。●飯田線で列車が三輪川に転落。死者一八名。

18(日)●日本聖公会主教・佐々木鎮次、スパイ容疑で拘禁される。

19(月)●米軍、硫黄島に上陸開始。守備隊の反撃活発。

20(火)●天皇、四地方行政協議会会長から事情を聞く。

21(水)●特攻隊三二機、硫黄島周辺で米空母を撃沈。

22(木)●翼壮議員同志会の河盛安之介ら一六名、より強力な新党結成をと翼賛政治会を脱会する。

23(金)●米軍、硫黄島の摺鉢山占領。米軍司令部、上陸以来一分ごとに戦死傷三名、と発表。

24(土)●空襲で輸血が急増しているため、厚生省が、血液感染の予防措置を準備中、と新聞に。

25(日)●B29二〇一機、東京を空襲。二万戸被災。

26(月)●陸軍省・参謀本部首脳会議、戦力配分を陸軍優先とする本土決戦完遂基本要綱を決定。

27(火)●海軍、予備役の軍医・歯科医を募集。

28(水)●空襲被災者の疎開は鉄道運賃が無料となる。



毎日新聞社

▲南海に燃え落ちる特攻機(3月18日)特攻攻撃は米軍に恐怖を与えたが、多くが目的をはたせなかった。写真は米空母「ワスプ」の激しい砲火をあび、沖縄沖に墜落する艦上爆撃機「彗星」。

毎日新聞社

◀焼夷弾の雨(3月)東京、大阪、神戸、名古屋など次々に未曾有の空襲を受けた。焼夷弾「モロトフのパン籠」は中空で爆発後、地上に火の雨を降らせるため、市街地の焼失は激しかった。

朝日新聞社

▲焼け跡で入浴(3月)3月10日の大空襲を頂点とするB29による絶え間ない無差別絨毯爆撃によって、東京の焼け野原はふえ続けた。写真は国電大塚駅付近の光景。

毎日新聞社

◀避難先を告げる焼け跡の案内(3月17日)この日、大空襲で神戸市の半分が壊滅した。焼け跡となった元町に出された写真の張り紙には、「り組」とあり、町内ぐるみ全員無事だった。

河北新報社

▲鍋蓋を作る児童たち(3月)物資窮乏による供出は、アルミの鍋蓋にまでおよび、飛行機の部品となった。仙台市では代替品の木の蓋を国民学校の「学校工場」で児童が製作した。

東京空襲を記録する会

▲大空襲1週間後の浅草(3月19日)写真は浅草の松屋デパート屋上からパノラマで撮影した大空襲の惨状。左は隅田川、右には地下鉄浅草駅ビルと焼け落ちた仲見世が見える。

## 昭和20年3月

1(木)●米軍艦載機、沖縄一帯に延べ一二二八機来襲。

2(金)●北海道岩内町で女子挺身隊員が、航空食用に魚の目玉を一日に数十貫抜く、と新聞に。

3(土)●米軍、包囲攻撃でマニラを完全占領する。

4(日)●大本営、硫黄島で日本軍「勇戦中」と発表。

5(月)●沖縄で、学童などの県外への疎開を打ち切る。

6(火)●国民勤労動員令公布。病人にも登録を義務化。

7(水)●日本放送協会、警報伝達の徹底でラジオの修理や拡声器を設置する非常対策担当部を新設。

8(木)●木戸内大臣、重光葵外相と早期終戦を協議。

9(金)●警視庁、隠匿退蔵物資の一斉摘発を開始する。

10(土)●B29三三四機、前夜から東京大空襲。初の無差別爆撃で江東地区が壊滅する。●内務省、米軍宣伝ビラの届け出を義務化する。

11(日)●翼賛政治会脱会者ら二五名、護国同志会結成。

12(月)●米軍、硫黄島に本土爆撃機用の滑走路を完成。

13(火)●留置者一四一名で作る刑政憤激挺身隊、東京・本所付近の戦災遺体処理に初出動する。●B29、翌日未明にかけ大阪に最初の大空襲。

14(水)●タバコの配給は一日七本から三本にと大蔵省。

15(木)●共産党中央委員・市川正一、宮城刑務所で獄死。●大本営、満州国配備の師団を内地へ、と発令。

16(金)●戦災見舞いの塩鮭など三〇〇トンが東京築地へ。

17(土)●海軍、特攻専用機「桜花」を兵器採用する。●硫黄島の日本軍守備隊が全滅する。

18(日)●決戦教育措置要綱決定。四月から授業を停止。

19(月)●B29二九〇機、名古屋市街を無差別爆撃。

20(火)●運輸省、東京―下関間以外の急行列車を廃止。

21(水)●小磯首相、汪兆銘政権の考試院副院長・繆斌経由の日中和平工作を提案。重光外相ら反対。

22(木)●大日本戦時宗教報国会が米軍「必滅」声明。

23(金)●大本営、東部軍に長野県松代に地下大本営の新設工事開始を命じる。

24(土)●警視庁、空襲死亡者を従来の「変死者」から「戦災死亡者」に変更と各警察署に通達する。

25(日)●農商相、一日二合三勺の主食を確保、と言明。

26(月)●米軍、沖縄の座間味島上陸、一七二名が自決。

27(火)●ビルマで国軍蜂起、抗日武装闘争全土へ拡大。●米軍、関門海峡に機雷を投下し、封鎖を開始。

28(水)●軍事特別措置法公布。土地建物を緊急収用。

29(木)●陸軍省、召集範囲を拡大するため規則改正。

30(金)●大日本政治会を結成。翼賛政治会は解散。

31(土)●兵庫県で不時着機に列車衝突。死者一一名。

▲**戦艦「大和」、爆沈(4月7日)**片道燃料しか積まず前日、山口県徳山港を沖縄に向け出発。薩南諸島沖合を航行中に米軍の魚雷と空爆を受け、巨体を海中に沈めた。乗組員2489人のうち生存者は276人だった。

PPS

▶**逆さ吊りにされたムッソリーニと愛人(4月29日)**スイスに脱出しようとしていたところを捕まり、銃殺されたうえ、この日ミラノ市のロレッタ広場で市民の面前にさらされた。

朝日新聞社

▲**大東亜共栄圏大使会議開く(4月23日)**連合国の国連結成の動きに対抗し、日本、満州国、中国(南京政府)、タイ、ビルマ、フィリピンの6ヵ国大使が東京に参集。「米英の専制を許さない真の世界平和」を宣言した。

福島民報社

▲**幻の原爆製造(4月)**東京空襲のため福島県石川町に移転していた理研希元素工業がウラン鉱の探索を行った。陸軍がひそかに進めていた原爆製造の実現をめざすものだった。

アメリカ国防総省

▼**屍を越えて前進する米軍(4月)**玉砕戦法をとる沖縄守備隊は4月末になると戦力は半減。敗戦は明らかだったが、終戦まで多数の県民を巻きこみ、いたずらな消耗戦を続けた。

## 昭和20年4月

1(日)●米軍、沖縄本島に上陸開始。
●米潜水艦、台湾海峡で輸送船「阿波丸」を撃沈。
2(月)●米軍、夜間空襲に初めて照明弾を使用。
3(火)●マッカーサー、米太平洋陸軍総司令官になる。
4(水)●京都市で国宝の仏像など疎開完了、と新聞に。
5(木)●ソ連、日ソ中立条約を延長せず、と通告する。
●小磯内閣、総辞職。鈴木貫太郎に組閣命令。
6(金)●連合艦隊司令部、沖縄上陸米軍へ最大規模の第一次航空総攻撃(菊水一号作戦)を発動。
7(土)●鈴木貫太郎内閣が成立。戦争続行を言明する。
●戦艦「大和」以下一〇隻の海上特攻隊、潰滅。
8(日)●大日本教育会、陸海軍へ各一三〇万円献金と、戦闘機「全日本学徒号」献納で運動終了。
9(月)●埼玉県下に天然痘流行。二日以来一五名に。
10(火)●京都の画家ら、海軍軍需美術研究所を作る。
11(水)●スペイン政府、日本との外交関係断絶を発表。
●杉村春子主演「女の一生」、東京・渋谷で初演。
12(木)●ルーズベルト大統領急死。後任にトルーマン。
13(金)●閣議、「国民義勇軍」の創設を決める。
●B29、東京を無差別爆撃。明治神宮など焼失。
14(土)●東京帝室博物館、美術品の疎開を開始。
15(日)●吉田茂ら、和平工作の嫌疑で憲兵隊に検挙。
16(月)●軍需インフレで二百円紙幣発行。
17(火)●ガンジー、インドの完全独立に向け声明発表。
●秋田県一日市町で火事。全六〇〇戸中五三七戸が焼失し、面潟村にも飛び火(19日鎮火)。
18(水)●東郷茂徳外相、重光前外相の進めていたスウェーデン経由の和平工作を打ち切る。
19(木)●日本通運、衣料など疎開品の保管を始める。
20(金)●軍需省、日本発送電・九州火力発電に合併命令。
21(土)●沖縄の伊江島守備隊主力が全滅する。
22(日)●ソ連軍戦車隊、ベルリン市街に突入。
23(月)●中国共産党七全大会、延安で始まる。
●大東亜共栄圏六ヵ国の大使会議、東京で開く。
24(火)●来日中の満州国総理・張景恵、塩や大豆などの戦災見舞品目録を鈴木首相に贈呈する。
25(水)●宮内省、名古屋城の金の鯱の雌を疎開させる。
●米ソ両軍、エルベ河畔のトルガーで合流する。
26(木)●政府、「阿波丸」撃沈で抗議文を米国に提出。
27(金)●ムッソリーニ、パルチザンに逮捕される。
28(土)●農商省、麦といもの買い入れ価格増額を発表。
29(日)●鎌倉・鶴岡八幡宮で鎌倉擲弾義勇隊の結成式。
30(月)●政府、原則として官庁の休日全廃を決定。
●ヒトラー、ベルリンの首相官邸地下壕で自殺。



## 証言・あの日この日
# 内田百閒

**3月10日(土)** 〈表を焼け出された人人が列になって通った。火の手で空が明かるいから、顔まではっきり見える。みんな平気な様子で話しながら歩いて行った。声も晴れやかである。……着のみ着のままだよと、可笑しさうに笑ひながら行く人もあった〉(内田百閒『東京焼尽』)

下町を中心に死者約10万人を記録した東京大空襲の悲惨さについては、数多くの実録がある。一方で、上のような証言も書き残されている。百閒自身、5月24日の大空襲で家を失い、その1週間後の日記で、「焼け出された人人がさっぱりしたさっぱりしたと云ふのが頻りに新聞に出てゐるけれど、さっぱりしたと云ふ気持はその人人によって幾らか違ふかも知れないと思ふ。しかし私は私の都合でさっぱりした事は確かである」と述べている。

(坪内祐三)

毎日新聞社

▲**沖縄戦で戦艦「ミズーリ号」に突っこむ特攻機(5月8日)**海軍が仕掛けた「菊水作戦」の一環。特攻機は延べ1506機に達したが、米海軍の損害は撃沈4隻、損傷22隻だった。

▼**義烈空挺隊、故郷に別れの挨拶(5月24日)**沖縄の読谷などの米軍飛行場を奇襲攻撃するため熊本県の健軍基地に集合。12機が出撃、1機が着陸に成功し米軍機8機を破壊した。

小柳次一

毎日新聞社

▲**炎上する名古屋城(5月14日)**政府は18年に文化財の疎開などを決めたが、空襲で多くが失われた。名古屋城天守閣もこの日、灰燼に帰した。

▼**ドイツ国会議事堂にソ連旗(5月2日)**4月16日からベルリンへの猛攻を開始したソ連軍は、30日にヒトラーを自殺に追いこみ、ついにベルリンの完全征服を達成した。

▶**緑十字を付けた「阿波丸」撃沈(4月1日)**連合軍捕虜への救恤品を運ぶ途中、台湾海峡で米潜水艦に攻撃された。生存者はわずか1名。24年に政府が賠償請求を放棄、遺族見舞金は1人7万円にしかならなかった。

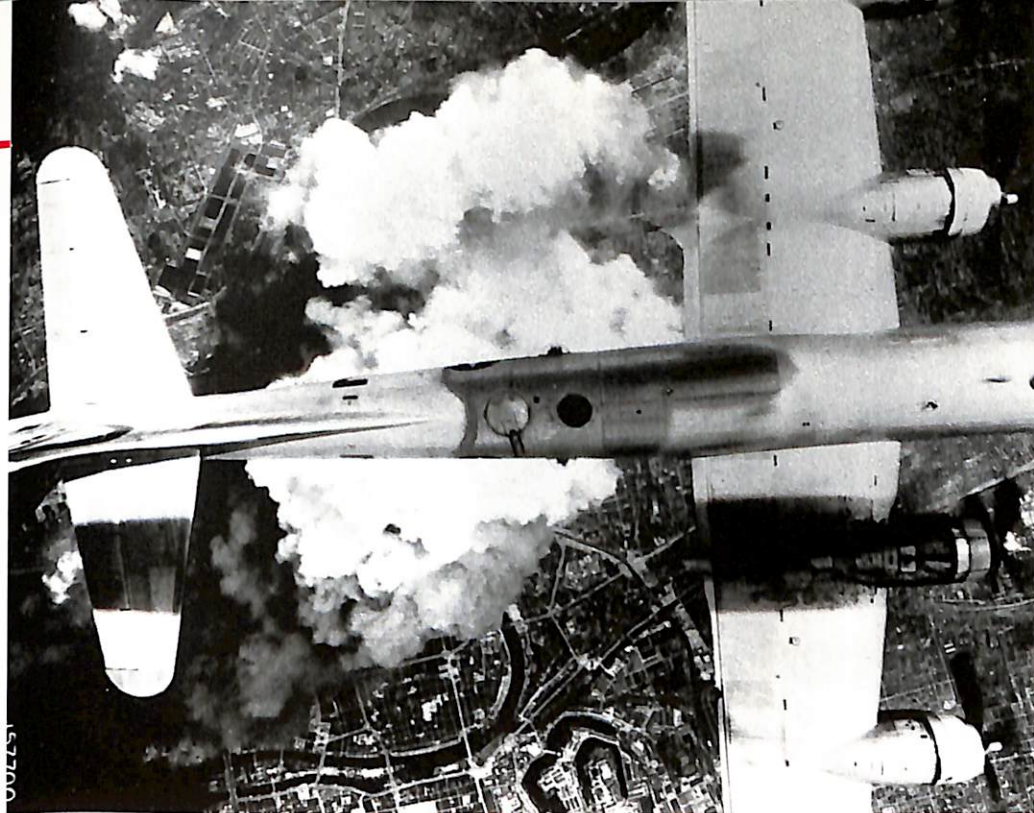
## 昭和20年5月

1(火)●川端康成、高見順ら、貸本屋「鎌倉文庫」開店。
●国民勤労動員のための国民登録、全国で実施。
2(水)●英軍、ビルマのラングーンを占領。
3(木)●予科練生が岩手山麓で松根油製造、と新聞に。
4(金)●沖縄県庁職員ら四月の給料を陸軍省に献金。
5(土)●米軍機、広島県呉市、九州各航空基地に来襲。
6(日)●津田塾専門学校の女子生徒四人、同校に移転した第九二部隊の門標を玉川上水に流す。
7(月)●ドイツ軍、連合国軍に無条件降伏。
8(火)●軍需融資迅速化のため、資金統合銀行を設立。
9(水)●靖国神社、一週間の「伏敵祈願」を始める。
10(木)●B29三七九機、岩国、九州各地を焼夷弾爆撃。
●米統合幕僚長会議、九州上陸のオリンピック作戦と関東上陸のコロネット作戦を承認。
11(金)●最高戦争指導会議、外交手段によるソ連の参戦を防止することで一致する。
12(土)●官吏給料三ヵ月分前払い、と大蔵省規則改正。
13(日)●米に投降した独潜水艦同乗の日本軍士官自決。
●日本貯蓄銀行を設立(現・あさひ銀行)。
14(月)●B29四八〇機、名古屋大空襲。名古屋城焼失。
15(火)●東京で長距離乗車券の発売駅と枚数を制限。
●閣議、日独伊三国同盟失効を決定する。
16(水)●第一期海軍特別幹部練習生、各航空隊へ入隊。
17(木)●富山地方鉄道の三郷駅で上りと下り列車が正面衝突。死者三五名、重軽傷者一五〇名。
●墜落米軍機の飛行兵を九州帝大で生体解剖。
18(金)●東京都、未疎開学童に寺子屋式教育を始める。
19(土)●運輸通信省が廃止され、運輸省が発足。
20(日)●全国のタバコ店でアルミ貨幣の回収運動開始。
21(月)●出勤率が低下し東京では七十数%、と新聞に。
22(火)●第三二軍、首里を捨て沖縄南部へ後退を決定。
23(水)●デンマーク、対日断交を正式に通告する。
24(木)●特攻隊の義烈空挺隊一二〇名、米占領下の沖縄読谷・嘉手納両飛行場に強行着陸し全滅。
25(金)●B29四七〇機、東京大空襲。山手の都区部の大半を焼失し、宮城も炎上する。
26(土)●前日の空襲を受け、臨時閣議を開催。
27(日)●東京の新聞五社が被災で「共同新聞」を発行。
28(月)●朝鮮総督府、日本本土行き乗車券を発売停止。
●海軍、「回天」などを水中特攻兵器に採用。
29(火)●白昼にB29とP51が来襲、横浜の市街地焼失。
●第三二軍は首里を撤退し、翌朝摩文仁に到着。
30(水)●長野県山田温泉で火事、疎開中の女児が死亡。
31(木)●米軍、沖縄の首里地区を占領する。

アメリカ国防総省

無明舎出版提供

**▲中国人強制連行の悲劇(6月30日)** 秋田県花岡鉱山の中国人労働者850人が、重労働による420人の死亡に抗議して蜂起したが、全員逮捕された。写真は米軍が掘り出した遺骸。

**◀大阪を襲った大空襲(6月1日)** 3月に続く激しい絨毯爆撃。8月14日までに大阪の空襲は33回におよび、1万2620人が死亡した。写真は大阪城近辺を爆撃中、対空砲火に被弾したB29。

川上今朝太郎

**▲おからを求めて長蛇の列(6月)** 食糧不足が深刻化する中、長野市善光寺近くの凍豆腐の工場が、おからを一人一杯と決めて売り出したところ、整理券を求める長い列ができた。

アメリカ国防総省

**▲壕から救助された沖縄の少女(6月)** 沖縄県民は日本軍とともに敗走、壕の中で軍人とともに死んでいった。少女はおびえた目で米兵の差し出す水を飲んだという。

**▶傷痍軍人のための本場所(6月7日)** 東京の両国国技館で開催。当初は明治神宮相撲場で行う予定だったが、空襲のために中止になっていた。13日まで行われ、前頭筆頭の備州山が7戦全勝で優勝した。

菊池俊吉

## 昭和20年 6月

1(金)●米国のスティムソン委員会、日本への原爆投下をトルーマン大統領に勧告する。
2(土)●都内の銀行が各罹災地に共同店舗を開設。
3(日)●独・仏・蘭からの引揚げ邦人一四一人が、シベリア経由で満州里に到着する。
4(月)●内務省の後援で戦災者北海道開拓協会を設立し、五万戸の北海道移住をめざす、と新聞に。
5(火)●B29三五〇機神戸に来襲。東半分を焼失する。
6(水)●政府、総合計画局に戦災復興部を設置する。
7(木)●国技館で、傷痍軍人だけを招待した非公開の大相撲興行が幕開け(~6月13日)。
●B29四一八機、大阪市と周辺に焼夷弾の攻撃。
8(金)●東京都国民義勇隊の結成式を行う。
9(土)●木戸内大臣、ソ連の仲介で戦争終結をはかろうとする「時局収拾対策試案」を天皇に内奏。
10(日)●米軍の三六二機、関東全域の工場地帯に来襲。
11(月)●戦時損害賠償保険の請求手続きが簡素化。
12(火)●福島県奥川村で一二人が天然痘と診断される。
13(水)●大政翼賛会、翼賛壮年団、大日本婦人会などがそれぞれ解散、国民義勇隊に統合される。
●日本交響楽団、戦中最後の定期演奏会を開く。
14(木)●千葉県、戦争に直結しない学校課目を停止。
15(金)●山田耕筰ら音楽挺身隊、戦災地区の慰問開始。
●B29、大阪空襲(以後、中小都市へ拡大)。
16(土)●都民食堂に代わる「外食券食堂」が店開き。
17(日)●台湾向けの民間郵便の引受けを停止する。
18(月)●沖縄の前線で負傷兵看護にあたった「ひめゆり部隊」四九名、摩文仁村の洞窟で自決。
19(火)●「緊急住宅対策要綱」が閣議報告され、半地下式の住宅などの建設促進がもりこまれる。
20(水)●ガス料金が四割値上げされる(一九年ぶり)。
●米と代用食半々の配給が東京で始まる。
21(木)●戦時緊急措置法公布。非常時には政府に全権。
22(金)●B29四一八機、近畿・中国地方を空襲。
23(土)●第三二軍司令官・長勇らが摩文仁村で自決。沖縄守備隊の組織的抵抗終わる。
24(日)●神田の戦災地で茨城の少年農兵隊が田植え。
25(月)●大本営、沖縄での作戦終結を発表する。
26(火)●B29一機、前夜から北海道に初めて来襲。
27(水)●米上院で日独の在米資産処理につき公聴会。
28(木)●東郷外相、対ソ交渉案を特使・広田弘毅に渡す。
29(金)●宇都宮市が地下病室工事に着手、と新聞に。
30(土)●強制連行された中国人八五〇人、秋田県花岡鉱山で蜂起する(花岡鉱山事件)。



## 20世紀博物館

# セキグチ・ドールハウス 東京・葛飾区

## 迷路の先にあったキューピー人形の家

桑原茂夫

▲セルロイド人形は手触りにも色合いにも温かみがあって、人形のイメージをがらりと変えた。

下町の路地に迷いこみ、どうやらたどり着いた小さなコンクリート造りの建物が、人形メーカー・セキグチの博物館「セキグチ・ドールハウス」だった。入り口から一歩足を踏み入れると、カラフルなセルロイドの人形や玩具が、視野いっぱいに広がって、一気にファンタジックな世界へ誘いこまれることになる。

▶このような型枠からあのキューピー人形は生まれていった。

セルロイド人形というと、キューピーが反射的に思い浮かぶが、セキグチも大正七年に創業してすぐキューピーを生産している。このキューピーを含めたセルロイド玩具は、当時の人気商品で、とにかく作りさえすれば売れるという、結構な状況にあったそうだ。海外へもさかんに輸出していた、まさに花形産業だったのである。葛飾区の四ツ木や堀切という地名はセルロイド玩具のメッカとして、海外にも知れわたっていた。しかもこのあたりは戦災にもあわずにすんだので、戦後ただちに製造・販売を再開し、子どもたちには再び夢を届け、経済的にはいち早く外貨を獲得していったのである。

◀大正七年に売り出されたキューピー。

しかし、この話には、首を傾げる向きもあるに違いない。「青い目をしたお人形は、アメリカ生まれのセルロイド」(野口雨情作詞の童謡)で、むしろ輸入していたのではないかという疑問が生まれるからだ。

そのあたりのことを、このセキグチ・ドールハウスの案内人でもある、吉野高代さんに尋ねると、あの歌にまつわる話は別にしても、人形といえば、布地か、陶製の人形しかなかった時代に、ソフトでカラフルな材質の人形が登場したのだから、舶来物と思われても仕方なかったのでは、という答えが返ってきた。

なるほどそうかもしれない。

時代を大正にまでさかのぼらなくても、戦後の混乱期に見たセルロイド人形は、やはり日本製のものには見えなかった。「何でも一番」のアメリカ生まれのセルロイドであるはずだったのだ。

▼堅牢だがなぜか懐かしさを感じさせるドールハウス。

平野美津子

### 封印されたセルロイド

このセキグチ・ドールハウスには、セルロイド人形が三〇〇体、その他の玩具が二〇〇点も並べられている。そのすべてが創業以来セキグチで製造販売されたものだそうで、まさに壮観なのだが、それだけに、今ではまったく生産されていないというのが、ちょっと奇妙な感じだ。

昭和三〇年にプッツリとセルロイド玩具の歴史はとだえてしまう。セルロイドという素材そのものが燃えやすく、危険とされたからで、まずアメリカで輸入禁止の措置がとられ、たちまち日本でも製造中止に追いこまれてしまった。

セルロイドは、玩具だけでなく、筆箱や下敷きなど文房具の素材としても用いられていたから、ある世代にとってはまことに身近な存在であり、その手触りごと記憶にしまいこまれたのである。

セキグチ・ドールハウスは、小さいながらも、そんな記憶がごちゃごちゃといっぱい詰まった「おもちゃ箱」のようでもあり、下町の迷路が行き着く先にふさわしい「夢の蔵」でもあった。

●セキグチ・ドールハウス
東京都葛飾区西新小岩五―一二―一一
☎〇三―三六九二―三一一一㈹
JR総武線新小岩駅から京成バス52系統上・平井町下車、徒歩五分
開館時間=一〇時~一二時、一三時~一五時(事前に電話で申しこむ)
休館日=土・日・祝日、夏休み、年末・年始

## ベストセラー

# 『日米会話手帳』三六〇万部 活字飢饉で売り切れ続出！

終戦を境に、出版事情、読書事情は一変した。戦時中は検閲済みの活字しか読めず、紙も欠乏していたため、昭和一九年末の新聞は、一日二ページきり。二〇年三月の東京大空襲で、都内の書店の九割近くが焼失してしまうといった状況と相まって、終戦直前にはまさに活字飢饉におちいっていたのだ。終戦と同時に、紙に印刷してあるものなら何でも手に入れたい、読んでみたいという人々があふれたのも、当然のことだったのである。新興の出版社も続々と名乗りをあげ、紙不足から用紙代の高騰を招くにいたったほどだ。

そんな中、空前の大ベストセラーが登場した。『日米会話手帳』（科学教材社＝現・誠文堂新光社）である。文庫本よりひとまわり小さいサイズで三二ページというハンディなこの本は、一〇月に発売（初版三〇万部、定価八〇銭）されるや、たちまちベストセラーになった。内容は日常の挨拶、道案内の仕方、数のかぞえ方など、きわめて基本的な会話ばかりだが、ポケットに入れて持ち歩き、必要な時すぐに役立つというのだから、売れに売れた。年末までに三六〇万部という大ベストセラーになってしまった。

また、「解禁昭和裏面史」というサブタイトルを持つ『旋風二十年』（鱒書房）上巻が年末に発行されたが、初刷り一〇万部が一週間で売り切れた。翌年春に刊行された下巻と合わせて八〇万部という、これも大ベストセラーになった。新聞記者による、過去二〇年間の真相をあばいた裏面史で、統制下におかれた戦時中の情報の裏にあったものがあかされるというのだから、中身の濃い情報を求める人々の欲求にこたえるものだった。

▶『旋風二十年』上巻・四円八〇銭。下巻・九円八〇銭。

▼「新生」創刊号。定価1円20銭。

▼「文藝春秋」復刊第1号。定価60銭。

なお、この時期見落とせないものに、創刊・復刊ラッシュを迎えた各種の雑誌がある。終戦から年末までに創・復刊されたものだけで二〇〇点近くにのぼる。一〇月に「文藝春秋」が復刊されると、一一月には「新生」が創刊され、発行部数三六万部が発売二、三日で売り切れたという。

## スターと名場面

# チャンバラ禁止令の中で封切られた「バンツマ」映画

戦争で疲れきった人々に圧倒的な人気を呼んだのは、並木路子の「リンゴの唄」だが、これは、一〇月に封切られた映画「そよかぜ」（佐々木康監督）の主題歌だった。それがラジオにも浸透し、大ヒットとなった。映画はあいかわらず、娯楽メディアの王座の地位にあったのである。

それだけに、占領軍も映画の影響力には気を配っていて、九月二二日にはチャンバラ時代劇禁止令を出し、仇討ちを美化する「忠臣蔵」などはもってのほかとした。そんな中、一一月八日にチャンバラのない時代劇が封切られた。「バンツマ」こと阪東妻三郎主演の「狐の呉れた赤ん坊」である。

丸根賛太郎監督のこの映画は、捨て子（実は、さる大名のご落胤）を育てた乱暴者を主人公にした人情時代劇で、バンツマの戦前のヒット作「無法松の一生」につながる雰囲気を持っていた。「本当の幸せはな、お金や着物でどうにかなるもんじゃねえ」といったタンカもぴったり決まって、観客の心を動かした。

一方、舞台の方では、文学座の「女の一生」が終戦の直前、奇跡的に上演され大成功をおさめていたが、戦後になって一気に活気づいた。九月一日には猿之助劇団による歌舞伎が、一〇月には新派が、そしてにぎやかなレビュー関係も復活。松竹歌劇団や東宝舞踊団、宝塚歌劇団がそれぞれ再スタートを切っている。

大映提供

▲戦後初の時代劇、阪東妻三郎主演「狐の呉れた赤ん坊」。

▶「女の一生」4月11日、東横映画劇場での初演舞台。森本薫作、久保田万太郎演出。主役の布引けいは、杉村春子が演じた。

文学座

▶「そよかぜ」に出演中の並木路子。彼女は松竹少女歌劇団を経て、この映画に初出演した。

松竹提供

## モノ語り'45

# いかにも「金よりモノ」の時代 たらい、ポマードに楽しい蓄音機

▶**レコードを聞きたくても蓄音機がなければ**　終戦直後、レコードはあってもプレーヤーがないという厳しい状況におかれている人が多かった。そんな中で、日蓄（現・日本コロムビア。戦時中は欧米色のある「コロムビア・レコード」のレーベルも使えず、「ニッチクレコード」となっていた）は、工作機械類を疎開させていたおかげで、早くから製造開始。安価なポータブル蓄音機を売り出したが、素材が不足し需要に十分こたえるというわけにはいかなかったという。写真は同タイプで昭和24年頃発売された高級仕様のもので、1万2000円もした。

▲**ジープに驚きたちまちミニチュアに**　日本に駐留したアメリカ軍の装備で最も話題を呼んだのは、四輪駆動のジープだろう。この人気にこたえて作られたのが、ブリキのミニチュアだ。材料は、米軍の食料用缶詰の空き缶で、これを延ばして工作する手作り玩具だった。1台10円と高価な玩具になったが、たちまち売り切れたという。製造元は小菅玩具工業大津支店。

▼**アルミのたらいでほっと一息**　戦後の廃墟の中とはいえ、衣服の洗濯や体の垢落としは欠かすことのできない日常作業だった。そこで必要なのがお湯とそれを溜める容器だったが、今では想像もできないほど貴重なものだった。ここに登場して好評を博したのがアルミ製のたらいである。日本アルミニウム工業は、航空機の材料を使って製造し、販売した。やがて材料が底をつくまで、アルミ製のたらいが広く流通したのである。

▲**はずれ券4枚でタバコ10本**　終戦直前の7月に「勝札」と称する富籤が発売されているが、戦後すぐ、今の宝籤に該当する「政府第1回宝籤」が発売された。1枚10円で、1000万枚売り出され、実売86パーセントの好成績をあげた。1等賞金10万円が100本というものだったが、副賞として綿布がつけられ、空籤4枚でタバコのゴールデンバットを10本もらえた。金よりモノの時代だっただけに、この副賞や空籤賞は魅力的だった。なお翌21年には旧日本勧業銀行に「宝籤部」が設置され、野球籤、三角籤などの「雑籤」時代を迎えた。

◀**早くもポマードでおしゃれ**　戦争中は男が髪のおしゃれをするなどとても許される時代ではなかった。終戦とともにいち早くポマードが復活、売り出されたのは、健全と言うべきか。柳屋ポマード（現・柳屋本店）は、戦時中も原料の木蠟やひまし油を、工場近くの蔵の中や地面に埋めて保存していたのと、精製技術のノウハウを持っていたため、戦後どこよりも早く、良質のポマードが製造販売でき、しかもロングセラーになった。写真はポマード・大で価格は不明。小は9円80銭だった。

▲**甘いものがほしかった**　食糧難の時代だったから、栄養もエネルギーも不足し、体は糖分を切実に求めていた。かといって砂糖は原材料がなく手に入らない。そこで試みられたのが、いわば代用砂糖である「ヅルチン（ズルチン）」だった。写真は翌年に発売された日本化薬のもの（価格不明）。栄養分はまったくなく、甘味だけを感じるというもので、常用すると毒性を生じることがあり、現在では使用が禁止されている。

**人物クローズアップ**

# 並木路子（二五）

## 焼跡に流れた心の応援歌「リンゴの唄」で国民的歌手に

▲「そよかぜ」に主演。九月一日に出演交渉されて、封切日が一〇月一一日のスピード撮影だった。

松竹提供

「リンゴの唄」は、終戦から二ヵ月たらず、一〇月一一日に封切られた映画「そよかぜ」（佐々木康監督・松竹）の主題歌だった。この映画には、その日その日を生き抜くことに追われる人々に、笑顔を取り戻させたいという願いがこめられていた。そしてその願いは、クライマックス・シーンのリンゴ畑で歌われるこの曲に集約されていた。作詞サトウ・ハチロー、作曲は万城目正である。

この歌にふさわしい、澄んだ声質のヒロインを探していたスタッフの目にとまったのが、当時二五歳で松竹少女歌劇団（後のＳＫＤ）出身の並木路子だった。

この映画で、ヒロインに最も要求されたのは、見るものが誘われる自然な笑顔だった。しかし、並木が作る笑顔はぎごちなかった。多くの日本人同様、彼女も戦争による心の傷を負っていた。

この年三月の東京大空襲。並木と母親は炎の中を逃げまどい、ともに隅田川に飛びこんだ。その結果、彼女は救われたが、母親は還らぬ人となってしまったのである。彼女の心の傷は、癒えていなかった。「私を変えてくれたのは、万城目先生の言葉でした」と、並木は当時を振り返る。

「先生が『新橋や有楽町をごらん。親を失った子供たちが元気に働いている。大人の君がいつまでも泣いていてはだめなんだよ』と、できあがったばかりの譜面を手に励ましてくださいました。そして、レッスンするうち、この歌にこめられた先生の思いが伝わってきて、笑顔が自然と出せるようになりました」

### ラジオを通じて全国に

終戦後初の日本映画「そよかぜ」は封切の初日から、映画館に入りきれないほどの観客を集めた。

映画のヒットとともに話題を呼んだ「リンゴの唄」を全国に届けたのは、ラジオだった。ラジオ番組「希望音楽会」で、並木の歌声が流れるや、リクエストが殺到した。そして、大晦日の「紅白音楽試合」では、高峰秀子、霧島昇、ディック・ミネら当時の大スターと歌声を競った。さらに、戦後第一号として発売されたレコードが、約三〇万枚の売り上げを記録した。この一曲で、並木は国民的歌手となったのである。

「この歌がなければ、私はいつまでたっても戦争の被害者のままだったかもしれません。『リンゴの唄』は日本人の心の応援歌なんです。私は歌うことで皆さんを応援し、聴かれることで応援されていました」

時代がどう変わろうと「リンゴの唄」の価値は変わらない、と語る並木の思いが、終戦五〇年後の平成七年、新バージョンの「リンゴの唄」のＣＤ発売に結実した。並木は、この「リンゴの唄」を、阪神大震災復興応援歌として歌った。

▲ＮＨＫのラジオ番組で「リンゴの唄」を歌う。芝田村町の飛行会館で収録。

日本コロムビア提供



▲「リンゴの唄」は、故・霧島昇とのデュエットでレコーディングされ、昭和21年1月発売。その後、「森の水車」「バナナ娘」などのヒット曲を出している。

決定的瞬間

# 「Vサインはキスで」日本降伏の日のドラマ 抱き合うこの二人は誰？

戦争が終わった！　平和がやって来た！　一九四五年八月一四日（米時間）、日本降伏。何十万というアメリカ国民は通りに広場に飛び出し、かつてない歓喜に酔いしれた。これでもう死ぬことはない。夫を、息子を戦場へ送ることはない。

熱にうかされたようだった。兵隊たちは手あたり次第、街行く若い女性を抱き寄せ、キスの雨を降らせた。熱烈なる勝利のキス——、中でもニューヨークのタイムズ・スクエアで撮られた一枚の写真（「ライフ」一九四五年八月二七日号掲載）は、文字どおり〝世紀の一瞬〟として、何よりも雄弁にこの日の喜びをものがたっている。

撮影者は雑誌「ライフ」の専属カメラマン、アルフレッド・アイゼンシュテット。数多くのルポルタージュ写真をものした、この強者カメラマンは、その時、相棒のライカを胸に、お祭り騒ぎのタイムズ・スクエアを走りまわっていた。

一瞬の出来事。目の前を横切る一人の水兵が白衣の女を横抱きにする。情熱的なキス。夢中で押したシャッター四回。

「いい情景はむこうからやって来る」と後年、彼自身が語ったとおり、偶然の神がカメラマンの本能に撮らせた瞬間のドラマ——やがてそれは伝説となった。

では、この男女は誰なのか？　以後四〇年以上にわたってアメリカは二人の消息を求め続けてきた。雑誌「ライフ」が出した全米向けの広告に対し、「自分こそ写真の水兵その人」と名乗り出た男性は実に二六人。が、そのいずれもが決め手に欠けたという。

半世紀という時間は歓喜の瞬間を忘却の彼方へと押しやるに十分だった。そして何より、写真の主人公ということになれば、このうえない名誉とひと財産が約束される。その後も被写体を自称する男女は後を絶たず、そのたびにタイムズ・スクエアでは〝世紀の再会〟が繰り返された。が、真相は藪の中。九五年八月、撮影者のアイゼンシュテットが九六歳で死んでからは、これを同年五月の対独戦勝利の際の写真とする説さえ現れている。

古来、〝愛の女神〟が〝戦の神〟に口づける時、世界に平和が訪れるという。

半世紀前、ニューヨークのど真ん中で歓喜のキスを交したのは、実はアフロディーテとマルスのカップルだったのかもしれない。

PPS

▶おとずれた平和に、ニューヨークのタイムズ・スクエアは文字どおり歓喜の渦に包まれた。

◀情熱的な〝勝者のキス〟——はたしてこの男女は誰なのか？　最近では水兵の冬服を根拠に、五月の対独戦勝利の写真とする説もある。

# メイド・イン・USA 勝者の国からやって来たラッキー・ストライクの“香り”

昭和二〇年八月三〇日、連合国最高司令官マッカーサーが神奈川県の厚木飛行場に降り立った。以後、アメリカ兵約四三万人が日本全国にちらばり、占領政策を進めていった。

「敵軍」が進駐してくるというニュースは、さまざまな流言蜚語(ひご)とともに、人々の心に不安や恐怖感をうえつけていった。しかし、実際に接したアメリカ兵は、がいして陽気で気前がよかった。それどころか、彼らの開放的で楽天的な性格は、当時錯乱状態にあった人々の息苦しさを救ってくれる効果もあった。

「アメリカ兵の外出着はちゃんとアイロンがかかっていて、折り目がついていた」と終戦を一〇代の後半で迎えたグラフィック・デザイナーの木村恒久(つねひさ)氏は、当時の自分たちが着ていた衣服のひどさと比べて語り始めた。

「それよりも、アメリカ兵の服には驚いたね。なにしろポケットがいっぱいついているんだ。ズボンはもともと足元、後ろのポケットと六個くらい、上着は腕の横にあるのを含めると一〇個くらいもあったと思うよ」

そのポケットには、いろいろなものが詰まっていた。チューインガムやタバコ、ライター、チョコレート、恋人や家族の写真も入っていて、まるで手品のように次から次へと見せてくれたそうである。それらの中にタバコの「ラッキー・ストライク」もあった。

「なんのこっちゃあない。日の丸かと思ったが、単純で明快、シンプルで力強いデザインはやはりショックだった」と木村氏は続ける。

ラッキー・ストライクの包装は、一九四一年にレイモンド・ローウイによってリデザインされたものである。それまでグリーンだった地色を白に変え、表にしかなかった的のデザインを裏側にもつけ、そしてタイポグラフィーをスマートにしたのである。たったこれだけのことであるが、このリデザインは大成功だった。後年のことだが、昭和二七年にデザインの重要性に気づいた日本専売公社は、タバコの「ピース」の新装パッケージ・デザインにローウイを起用し、当時としては破格の一五〇万円を払った。ラッキー・ストライクの衝撃が呼び水になっていたのである。

## 見せつけられた豊かな生活

アメリカ軍の進駐は、日本に大量の生活物資を持ちこんだ。それはアメリカの豊かさを見せつけることでもあった。たとえば、食糧難でいつも腹をすかせていた日本人にとって、アメリカ軍から支給された非常食は、圧倒的な国力の差を見せつけた。

戦後、占領軍から支給された「レイション」というパックされた携帯食には、チーズやバター、ビスケット、いろいろな乾燥食品のほか、タバコが三本入っていた。「日本軍の携帯食はカンパンだった時代に、レイションはほとんど“未来食”のように思えた」と木村氏。

東京のど真ん中には、アメリカの豊かさを誇示するショーウインドウがお目見えした。東京・銀座の服部時計店が、次いで銀座松屋が接収されて、PXというアメリカ兵やその家族が買い物をするための施設ができたのである。店内にはパッケージのいろどりも鮮やかな食料品や衣料品、日用雑貨の数々が、うずたかく積まれていた。ショーウインドウに並べられたアメリカの生活用品は、日本人のアメリカ文化へのあこがれと欲望をかきたてたことだろう。

「アメリカのモノによるプロパガンダ戦略の一環ですね。こうして日本人は言葉よりはむしろ、製品やモノを通してアメリカを学んでいったのです」と武蔵野美術大学教授の柏木博氏は語る。

▶日本人があこがれた“メイド・イン・USA”の製品。タバコのほか、コカ・コーラ、ジッポーのライター、バランタインの缶ビール、軍用ステンレス製食器など。

松尾忠男

▲この年の「ライフ」12月17日号に掲載された広告。

▲ナイロン歯ブラシの広告。同じく「ライフ」に掲載された。

「現場」を歩く

# 日比谷

## 第一生命本館に残る〝元帥の机〟

山本徹美

マッカーサーの執務室が保存されていると聞き、訪ねてみた。

場所はかつてGHQ（連合国総司令部）が置かれていた東京・日比谷の「DNタワー21」（第一生命・農林中金本館）六階で、外部は平成七年に改修されたものの、マッカーサーの部屋は当時のまま歴史資料室として一般公開している。部屋に入ると、ウォールナットの壁材からパイプ煙草の香りが漂ってきそうな雰囲気だ。

昭和二〇年八月三〇日、連合国最高司令官ダグラス・マッカーサーは厚木飛行場に到着すると、とりあえず横浜のGHQへ。

九月五日、東京・丸の内に大挙して米兵が現れ、軒並み建物を物色してまわった。第一生命相互ビルも例外ではなかった。米第一騎兵師団の司令官が社内を視察していったとの情報を耳にした矢野一郎常務（当時）は「いやな予感が走った」とその著書『第一生命館の履歴書』で告白している。接収は覚悟していたが、戦闘部隊の荒っぽい連中などには大切な館を明け渡したくない。なにしろこのビルは創業者である彼の父、矢野恒太が堅牢と安全を最大の条件に、最高の技術と知識を注ぎ建造させたものだった。

昭和一〇年起工、一三年竣工。鉄骨鉄筋コンクリート建て地上八階、地下四階。この時代にあってすでにIBMの統計機を導入していた。矢野常務はGHQの参謀将校に「ここを本部に」ともちかける。兵隊よりは将校の方が大切に扱ってくれるだろう、と期待したのである。

九月八日午後二時、マッカーサーが第一生命館を内見に来る。最初に五階の臨時社長室を覗き、次に六階の正社長室を見、さらにもう一度五階を眺め、横浜へ帰っていった。元帥は三方を壁に囲まれた六階よりも採光状態がよく明るい五階を気に入ったようだ。側近たちは六階を勧めたが、なかなか承諾しない。引っ越しの前日一四日になって、渋々承知したという。

### 石坂泰三の愛用品

執務室にはこだわりをみせたマッカーサーだったが、意外や机と椅子は備え付けのもので構わないとの意向であった。それは一三年の竣工以来、ずっと社長である石坂泰三が愛用してきたものだった。畳三枚分はあろうかと思われるほど広いが、この机には抽斗がなかった。マッカーサーは、執務を滞らせないためには抽斗などないほうがいい、と言ったと伝えられている。

石坂は財界では三〇貫（七五キロ）を超す巨漢で知られていた。椅子のサイズは大柄なアメリカ人の元帥にもぴったりだったのかもしれない。

マッカーサーはこの机に着いて「人権確保の五大改革」や婦人参政権、農地改革など日本の民主化に関わる重要決定をしたことになる。

一方、机と椅子の本来の持ち主である石坂は、二四年から東京芝浦電気社長に就任、三一年から四三年までの高度経済成長期には、経団連会長としてわが国経済の牽引車的役割をはたした。この机は戦後日本政治経済の二大巨頭に仕え、歴史作りに一役かったわけである。

▲「DNタワー21」6階のマッカーサー元帥が執務した部屋。今は歴史資料室として一般公開されている。

アメリカ国防総省

▲昭和27年7月までGHQに接収されていた第一生命本館。



再現ドキュメント

# 日本降伏の瞬間！ 8月15日の「天皇と国民」

●廃墟の街に、人々が初めて耳にする天皇の声が流れた。「蟬がしきりと鳴いている。音はそれだけだ。静かだ」（高見順『敗戦日記』）

共同通信社

**八月一五日、日本は終戦の日を迎えた。無条件降伏を迫るポツダム宣言の受諾は、すでに御前会議において天皇の「聖断」が下されていた。しかし、「日本の一番長い日」は、降伏を阻止しようとする勢力との暗闘で幕を開けたのである。**

### 叛乱軍、「玉音放送」の録音盤を発見できず

あくまで「国体護持」の確証を取り付けるまで外交交渉を継続すべしと主張する近衛師団は、土壇場になってクーデターを計画した。記録をもとに再現する。

［午前零―一時］前日午後一一時二〇分頃から、宮内省内廷庁舎で終戦を告げる玉音放送を録音していた天皇は、録音を終えて御文庫の居室に戻った。録音盤二組は、日本放送協会の担当者によって二個の缶に納められ、皇后宮職事務官室の軽金庫に収納された。これが後に幸いする。

［午前一―二時］クーデターを計画する畑中健二少佐らは、決起を拒否した近衛師団長・森赳中将を殺害。宮城は占拠され、外部から遮断された。

［午前二―三時］叛乱軍は、宮城内整備司令所に中枢部を置き、占拠態勢が整う。

［午前三―四時］近衛兵たちが宮内省内へ入り、録音盤を探すが発見できなかった。収納した皇后官職事務官室が女官室だったからだ。

［午前四―五時］内幸町の放送会館が叛乱軍の将兵によって包囲された。彼らは、自分たちの真意を放送するよう強要するが、局員らが拒否。

●14日に行われた、ポツダム宣言受諾の記者会見。それを報じた15日の朝刊は、玉音放送に合わせて、正午まで配達を差し止められた。

共同通信社

[午前五―六時] 東部軍司令官・田中静壱らが、近衛師団司令部へ暴動鎮圧に乗り出す。叛乱事件が陸軍省に伝わり騒然となる。五時三〇分、陸相・阿南惟幾大将が自刃。

[午前六―七時] 天皇が事態を知り、蓮沼侍従武官長を呼ぶように命ずる。放送会館を包囲していた将兵が引揚げる。

[午前七―八時] 田中軍司令官らが宮中に入る。七時二一分、NHKは定刻より二時間二一分遅れて放送を開始し、正午に迫った玉音放送を予告する。

[午前八―九時] 宮中を占拠していた叛乱軍が退出。八時三〇分、無事だった録音盤が運び出された。

[午前九―一〇時] 米内光政海相が、陸相官邸で阿南陸相の遺骸と対面。

[午前一〇―一一時] 二組の録音盤が届いた放送会館では、玉音放送の準備があわただしく進められ、前日まで一〇キロワットだった放送電力を六〇キロワットに増力。昼間送電をとめられていた地方にも、送電の指示が出された。

[午前一一―一二時] 放送直前、憲兵中尉がスタジオに乱入しようとするが、取り押さえられる。

正午の時報に続いて、和田信賢アナの第一声、「ただ今より重大なる放送があります」、そして「君が代」のレコードの後、玉音放送が始まる。「朕深ク世界ノ大勢ト帝国ノ現状トニ鑑ミ……」に始まる天皇の肉声が流れた。

## 慟哭、自害……国内外で国民が迎えた運命の日

この日、佐賀県の農業・田中仁吾さん(当時四八歳)は、自宅のラジオの調子が悪く、向かいの家に行って聴かせてもらった。当時の日記にこう記している。

「甲高く、不明瞭に、語尾が震え、断片的に聞こえてくる言葉と悲痛な語調とが、敗戦のお知らせであることには間違いない。聞き入るうちに胸が熱くなり、女たちは目頭をおさえ、すすり泣きの声が聞こえた」

午後になると、玉音放送を聴いた人々が二重橋前に続々集まり、宮城に向かって正座して慟哭し、ときおり「海ゆかば」や「君が代」の歌声が流れた。軍人や右翼に自害するものも多く、八月二二日には、尊攘同志会員ら一二人が、愛宕山で自爆するといった事件も起こった。

一方、六〇〇万人の日本人が外地で終戦を迎えていた。朝鮮のソウル(京城)市内は終日、不思議に静かだった。しかし翌日、南大門通りは白い朝鮮服で埋まり、「万才(マンセイ)」の叫びが響いた。

北京にも玉音放送は流れた。午後になると上空を飛ぶ飛行機の編隊からビラがまかれ、それを拾った中国人たちは「勝った、勝った」と喜びの叫びをあげた。

満州(中国東北部)では、八日のソ連参戦で関東軍が北部一帯から退却し、生きのびた在留邦人が南へ避難する最中だった。関東軍は玉音放送を聴いて幹部将校が会議を開き、夜半になって即時停戦を決めた。

南洋諸島のパラオでは、放送を受信できなかったため、敗戦を知ったのは一七日になってからだった。

樺太にもソ連軍が侵攻、在留邦人は帰国を急いでいた。八月二二日には引揚げ船三隻が国籍不明の潜水艦に撃沈され、死者一七〇八人を出す悲劇も起こった。

「聖戦」の勝利を信じて疑わなかった多くの国民は、玉音放送によって打ちのめされた。八月一七日に発足した東久邇宮内閣は、それに追い討ちをかけるように、「国民総懺悔」を唱えて、敗戦の責任を国民自身に問おうとしたのである

▼玉音レコード。録音は、14日の夜、宮内省の天皇の政務室で行われた。

NHK放送博物館所蔵

◀終戦の詔書。迫水久常書記官長の原案を、一四日の閣議で修正したもの。混乱状態をものがたるかのように、切り張りや挿入のあとが残り、綴じひもに菊の紋章と紙の「封印」がついていない。

●終戦の日の朝、一面の焦土と化した東京の上空を、日本から2500キロ離れたマリアナ諸島を飛び立ったB29が、わが物顔に飛ぶ。

朝日新聞社

国立公文書館所蔵

# フォト＋日録で再現する365日

▲重巡「利根」、係留のまま大破（7月25日）米艦載機が呉軍港を爆撃し、港外に係留されていた歴戦の雄、重巡洋艦「利根」も被弾、大破した。

アメリカ国防総省

▶本土上陸用物資の集積場になった那覇（7月31日）5月31日、沖縄は米軍が占領、沖縄守備隊の抵抗がやんだ6月23日以降は本土戦に備えた。

アメリカ国防総省

ノーボスチ通信社

▲ソ連、「満州」を解放（8月）9日、国境を越えたソ連軍は破竹の勢いで「満州」を前進、13日には朝鮮北部からも侵攻し、関東軍を撃破した。写真は歓呼で迎えられたソ連兵。

◀霧立のぼる、戦災慰問（7月9日）宝塚出身の映画俳優として人気があった彼女が、大阪の戦災市民の前で慰問のため歌った。

共同通信社

菊池俊吉

▲竹槍訓練をする鹿児島の婦人部隊（7月）本土決戦のため、大本営は米軍迎撃態勢の構築を急いだ。上陸地点とみなされた鹿児島県志布志町がそれを受けて行った戦闘訓練。

◀壕舎の本屋（7月22日）東京麹町の一画に登場。焼けトタンでおおわれた壕舎に本を並べる。その中には新刊『壕舎の造り方』もあった。

共同通信社

## 昭和20年7月

1（日）●全国で銀行預貯金の共通支払制度が始まる。
2（月）●横浜市、勤務成績不良の職員三五〇人を解雇。
3（火）●横須賀市でブタノール盗飲の一一名が死亡。
4（水）●インドネシア建国に向け、スカルノが日本軍との協力を準備中、と同盟電。
5（木）●関東軍、防衛範囲を縮小した対ソ作戦を決定。
6（金）●「拓北農兵隊」一九七世帯、北海道へ出発。
7（土）●初のロケット機「秋水」、試験飛行で墜落。
8（日）●東京都、「雑草の食べ方」の講習会を始める。●横浜地検、じゃがいも窃盗犯撲殺を起訴猶予。
9（月）●帝国生命などで戦争保険金の支払いを始める。
10（火）●最高戦争指導会議、近衛文麿のソ連派遣決定。●米艦載機延べ一二〇〇機、関東全域に来襲。
11（水）●食糧配給が一割削減され、一日二合一勺に。●大阪朝日会館で「復興文楽」が開幕する。
12（木）●戦災地利用の戦時罹災土地物件令公布、施行。
13（金）●米国務省、「阿波丸」撃沈に責任を認める声明。
14（土）●米艦載機の攻撃で青函連絡船九隻が沈没する。
15（日）●東京の警官、空襲警戒し制服一万着を黒染め。
16（月）●勝札発売開始。一枚一〇円、一等一〇万円。●米、ニューメキシコで初の原爆実験に成功。
17（火）●米英ソ、ポツダム会談を開催。
18（水）●ソ連政府、近衛特使の受け入れを拒否する。
19（木）●医師不足で歯科医対象の医師試験受付を開始。●仙台で重要施設のぞき農地化を決定、と新聞に。
20（金）●広瀬蔵相、悪性インフレ防止に統制価格を廃して自由価格制の導入を、と閣議で提言。
21（土）●軍法会議で、「すみれ丸」奪取未遂事件の朝鮮人軍属九名に懲役刑の判決。●旅行者の外食券制度実施。駅弁にも外食券。
22（日）●P51二〇〇機、近畿各地を機銃射撃する。
23（月）●陸相、鉄道を鉄道義勇戦闘隊に編制と指令。●金属不足で木製飛行機増産を急ぐ、と新聞に。
24（火）●京城で大義党の演説中に反日派の爆弾が爆発。●大審院、ゾルゲ事件連座の犬養健に無罪判決。
25（水）●本土決戦に備え、松根油増産完遂運動を開始。●トルーマン大統領、日本への原爆投下を指令。
26（木）●米英中首脳、ポツダム宣言を発表。
27（金）●沖縄発進の戦爆連合機、九州各地を機銃爆撃。
28（土）●鈴木首相、ポツダム宣言は黙殺、と発言。
29（日）●軍需省が銅屑を一貫目三円五〇銭で買い上げ。戦災地から毎日三万貫を回収、と新聞に。
30（月）●佐藤尚武駐ソ大使、ソ連に和平斡旋を依頼。
31（火）●米潜水艦、苫小牧の王子製紙工場を艦砲射撃。



## 証言・あの日この日
## 山田風太郎

10月28日（日）〈観音様の堂が作られつつあった。瓦も葺かれているし、朱も塗られている。……一面広茫の焼野原にまっさきに浅草寺再建をやっているのはさすがである。堂の前に遠く縄を張って、その中におサイセン箱が置いてある。銭を投げておじぎしている男女たちを、アメリカ兵が軽蔑的なうすら笑いを浮かべて横目で見ていた。

バケツを叩いて売っていた男が、アメリカ兵に、ハローと怒鳴ってヒヒと笑ったが、アメリカ兵は苦笑して通り過ぎていった。おべっかをつかったのではない。この大道芸人はからかって見たのである。群衆も笑った〉（山田風太郎『戦中派不戦日記』）

戦争は終わった。秋晴れの日曜日。どこにこれだけの人がという群衆が浅草仲見世に。30円でヤミ屋はバケツを売り、米兵はタバコを売る。（坪内祐三）

▲「玉音放送」を聞く日本人捕虜たち（8月15日）彼らはフィリピンの収容所に連れてこられ、米軍の放送した終戦の詔勅を金網の中で聞いた。

アメリカ国防総省

▶宮城前で「終戦」を迎える人々（8月15日）この日正午、天皇は終戦の詔勅を放送。宮城前の玉砂利にひれ伏して号泣する人も多かった。

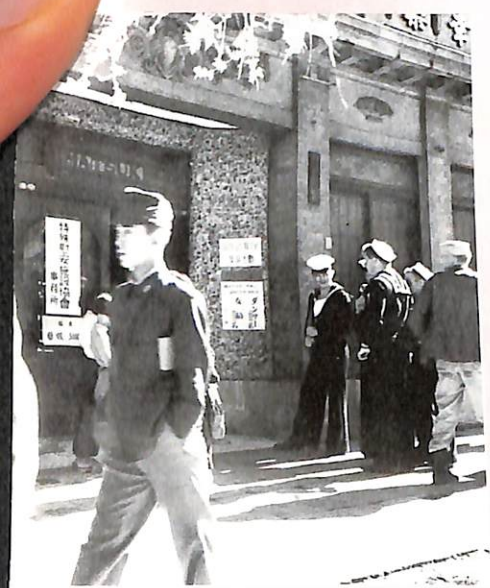
共同通信社

▼東京に向かう連合軍艦船（8月27日）約430隻の大船団が富士山を横目に、続々と相模湾に姿を現した。写真は戦艦「サウス・ダコタ」からの撮影。

毎日新聞社

共同通信社

▲初の皇族内閣、東久邇宮内閣誕生（8月17日）降伏に反対する軍部の抵抗をおさえ、連合国との終戦交渉を円滑に運ぶことにつとめたが、「一億総ざんげ」を呼びかけて国民の不評を買った。

◀特殊慰安施設協会（RAA）事務所を設立（8月26日）占領軍の「性の防波堤」となる国営の売春施設を作り、運営する機関で、写真は銀座にある同事務所前で募集の張り紙を見る占領軍兵士たち。

月刊沖縄社

## 昭和20年8月

1（水）●東京で購入通帳一本化、隣組単位の配給開始。
2（木）●日本音楽文化協会が職域国民義勇隊を結成。隊員は一五〇名、隊長に山田耕筰が就任。
3（金）●米軍、B29による機雷敷設で日本の港湾と内海航路を完全に封鎖したと発表する。
4（土）●東京都が靴の修理班を三八カ所に設置する。
5（日）●連合軍、太平洋の作戦区域を変更。米軍は日本本土侵攻、英・豪軍は南方奪回にあたる。
6（月）●午前八時一五分、広島に原爆が投下される。
7（火）●愛知県の豊川海軍工廠が爆撃され、女子挺身隊員、国民学校児童ら二四七七名が即死。
8（水）●ソ連、日本へ宣戦布告。ソ連軍国境を突破。
9（木）●午前一一時二分、長崎に原爆が投下される。
10（金）●政府、「国体護持」を条件にポツダム宣言を受諾する、と中立国を通じて連合国へ通知。
11（土）●阿南陸相「決戦覚悟を」の談話を新聞に掲載。
12（日）●日本のポツダム宣言受諾に対する連合国回答（無条件降伏）をめぐって、政府混乱。
13（月）●B29が東京に無条件降伏したむねのビラ散布。
14（火）●御前会議、ポツダム宣言の受諾を決定する。
15（水）●終戦阻止をはかる将校が近衛第一師団長殺害。●天皇、ポツダム宣言受諾詔書を放送する。●朝鮮建国準備委員会がソウルで結成される。
16（木）●トルーマン、日本は分割統治せず、と言明。
17（金）●東久邇宮内閣が成立する。
18（土）●皇帝・溥儀が退位し、満州国が消滅する。
19（日）●チャンドラ・ボース、日本へ向かう途中、台北で飛行機事故により死去。
20（月）●三年八カ月ぶりに灯火管制が解除される。
21（火）●支那派遣軍の今井少将、中国側と停戦協議。
22（水）●樺太からの引揚げ船三隻、国籍不明の潜水艦攻撃で沈没。死者一七〇八名。
23（木）●北千島の日ソ両軍で停戦協定が成立する。●天気予報の新聞掲載が再開される。
24（金）●八高線多摩川橋梁で列車衝突。死者一〇五名。
25（土）●軍需省など、軍需会社の指定取消しを告示。
26（日）●銀座に特殊慰安施設協会（RAA）設立。●大東亜省・軍需省が廃止され、農商省が農林省と商工省として発足する。
27（月）●真珠湾攻撃以来途絶の日米間の直通無線再開。
28（火）●連合軍の先遣隊一四六名、厚木飛行場に到着。
29（水）●日本放送協会、米対日放送への妨害電波停止。
30（木）●マッカーサー、厚木飛行場に到着する。
31（金）●横浜市で米兵がビール輸送のトラックを襲撃。

◀議事堂前に畑が出現(9月) 終戦直後の食糧難を乗りきるため、日本中が畑作りに精を出し、焼け跡は耕されて麦、イモ、カボチャなどが植えられた。畑作りは、同時に、泥棒との知恵比べだったという。

共同通信社

▶東条英機元首相、自殺はかる(9月11日)逮捕直前、東京・用賀の自宅でピストル自殺をはかったが一命をとりとめた。その後、極東軍事裁判でA級戦犯として判決を受け、昭和23年に絞首刑となった。

共同通信社

▲米軍船で故国に帰還(10月18日)復員兵で満員のLST船が、博多港に到着した。終戦時、海外に残された日本人は約660万人。復員・引揚げが軌道に乗ったのは、21年になってからである。

毎日新聞社

▲ダンスホールで従業員を大募集(9月20日)連合軍兵士を相手に、各地でダンスホールがオープン。大阪でも写真のようにダンサー、芸者、叔(淑)女接客係、通訳、楽士などを募集した。

毎日新聞社

▶ギブ・ミー・チョコレート(9月21日)米兵と最初に親しくなったのは子どもたち。ジープを取りまいてチョコレートやキャンデーをもらい、「ハロー」や「サンキュー」などを自然におぼえた。軽井沢で。

## 昭和20年9月

1(土)●東京の国民学校と中等学校で正規の授業再開。●東劇で猿之助一座が歌舞伎を再開する。

2(日)●重光外相と梅津参謀総長、米「ミズーリ」艦上で降伏文書に調印。太平洋戦争が終わる。●GHQ指令第一号。軍需生産の禁止など。

3(月)●山下奉文大将、フィリピンで降伏文書に調印。●占領軍、全国の駅名をローマ字で、と指令。

4(火)●神奈川県、各学校に女子の休校措置を通達。

5(水)●米軍、対米謀略放送で東京ローズを逮捕する。

6(木)●重光外相、連合軍は軍政を敷かないと発表。

7(金)●警視庁、連合軍進駐に備え通訳二〇〇名急募。

8(土)●連合軍の約八〇〇〇人、東京に進駐する。

9(日)●岡村寧次大将、南京で中国への降伏文書調印。

10(月)●東京淀橋署、闇市の露店を全面的に禁止する。●GHQ、言論・報道への覚書発し、検閲開始。

11(火)●GHQ、東条英機ら戦犯三九名に逮捕命令。東条はピストル自殺をはかるが未遂。●市川房枝ら、戦後対策婦人委員会の初会合。

12(水)●警視庁、頻発する米兵犯罪対策に連絡室設置。

13(木)●国後島のソ連軍、千島はソ連領と布告する。

14(金)●GHQ、一〇〇トン以上の船舶航行を解禁。

15(土)●全国の大学・高専で一斉に講義が再開される。

16(日)●海軍省、引揚げ者輸送のため艦艇乗員を召集。

17(月)●西日本を室戸台風に次ぐ規模の台風が襲う。死者・行方不明三七五六人(枕崎台風)。

18(火)●GHQ、朝日新聞を四八時間発行停止処分。●閣議、外国放送の聞ける受信機禁止を解除。

19(水)●GHQ、プレスコード(新聞紙規定)指令。

20(木)●「ポツダム宣言の受諾に伴ひ発する命令に関する件」公布施行。「ポツダム勅令」の法的根拠。●文部省、教科書の戦時教材に墨塗りを通達。

21(金)●朝鮮の米軍、神社法など朝鮮人弾圧法令廃棄。

22(土)●「降伏後における米国の初期対日方針」を発表。

23(日)●占領軍向けラジオ放送(AFRS)が始まる。●京大グラウンドで戦後初のラグビー試合。

24(月)●占領軍軍票は無制限通用通貨、と大蔵省公布。

25(火)●復員第一船の「高砂丸」、一六二八人を乗せて中部太平洋メレヨン島から別府に帰着する。

26(水)●哲学者・三木清、東京の豊多摩拘置所で獄死。

27(木)●天皇、マッカーサーを米大使館に訪問する。

28(金)●日本社会党の第一回準備会開かれる。

29(土)●天皇のマッカーサー訪問写真を各紙が掲載。

30(日)●大日本労務報国会・大日本産業報国会が解散。●七尾市で中国人労働者三八〇名が警察署襲撃。



▲マイホームは大型金庫(10月)大阪では約40パーセントの住宅が焼失したため、年末には「汽車住宅」「バス住宅」が出現、写真のように大型金庫に住む人も出てきた。

毎日新聞社

▲徳田球一、志賀義雄釈放(10月10日)予防拘禁の名目で拘置されていた日本共産党幹部の2人が、約3000人の政治犯にまじって、18年ぶりに出所。

月刊沖縄社

▼国際連合、正式に発足(10月24日)6月26日、50カ国によって調印された国際連合憲章の批准国が、この日、ソ連の批准で過半数の26カ国となって憲章が発効。翌年、ロンドンで第1回総会開催。

共同通信社

▲疎開学童の終戦(10月10日)新潟県へ疎開していた東京・江東区の元加賀国民学校の児童が、疎開中の荷をたずさえて上野駅に到着した。江東地区は空襲の被害が大きく、家族を失った児童も多かった。

毎日新聞社

## 昭和20年10月

1(月)●東京地検、占領軍が放出した木綿服地を横領した容疑で、足立区長ら三名を起訴。

2(火)●占領軍要人用の「オクタゴニアン号」運転開始。

3(水)●秋田船川港で中国人労働者が警察署など占拠。

4(木)●GHQ、政治犯の即時釈放、治安維持法廃止などを日本政府に覚書。内閣打撃を受ける。

5(金)●東久邇宮内閣、覚書は実行不可能と総辞職。●東京都で簡易住宅の建設申し込み受付開始。

6(土)●全国の特別高等警察が廃止される。

7(日)●「室戸丸」が兵庫県沖で機雷に触れて沈没する。

8(月)●夕張炭鉱で朝鮮人労働者六〇〇〇名余、スト。●上野高等女学校で生徒が、学校農園の不正で同盟休校(以後全国の学校で盟休相次ぐ)。

9(火)●GHQ、陸海軍から大量の金銀押収と発表。●幣原喜重郎内閣が発足。●大阪で、米よこせデモ契機に「主婦の会」結成。

10(水)●徳田球一ら政治犯約三〇〇〇名が釈放される。●疎開学童の帰京始まる。(翌年3月頃まで続く)。

11(木)●GHQ、五大改革を指令。女性解放、労働者の団結、教育自由化、経済の民主化など。●東京高校教授・亀尾英四郎、栄養失調で死亡。

12(金)●閣議、治安維持法廃止を決定(15日廃止)。

13(土)●閣議、女性への参政権付与を決定。

14(日)●GHQ、重要産業に貯蔵石油の供給を、と命令。

15(月)●在日本朝鮮人連盟が結成大会を開く。

16(火)●新宿御苑の約八万坪が田畑用に開放される。

17(水)●蔣介石の国民党軍、台湾へ上陸開始。

18(木)●南方諸島からの引揚げ二万一八五〇名に。

19(金)●公衆電話の代用、卓上電話が好評、と新聞に。

20(土)●盛岡市で弁当難から国民学校は午前で終了。●日本共産党機関紙「赤旗」が復刊。

21(日)●北海道に新しい山出現、と新聞に(昭和新山)。

22(月)●GHQ、軍国主義追放の教育制度政策を指令。

23(火)●読売新聞社従業員、社内民主化を決議(25日に組合結成、第一次読売争議へ発展)。

24(水)●国連憲章発効し、国際連合が正式に成立。

25(木)●憲法問題調査委員会設置。委員長に松本烝治。

26(金)●政府、食糧四三五万トンの輸入をGHQに懇請。

27(土)●都が住宅越冬案。一万戸の簡易貸家建築など。

28(日)●神宮外苑球場で六大学OBの紅白試合を行う。●マニラで山下奉文の戦争犯罪裁判が始まる。

29(月)●秋田師範男子部、食糧難のため二週間の休校。

30(火)●GHQ、軍国主義者など教員の追放を発令。

31(水)●日本の在外公館による外交活動全面停止。

▶GHQ、財閥解体を指令(11月6日)三井・三菱・住友・安田の財閥解体が指令されたこの日、三井系の帝国銀行から証券類7億円が運び出された。

◀日本自由党結党、鳩山一郎が総裁に就任(11月9日)東京・日比谷公会堂の結党大会で鳩山総裁、河野一郎幹事長を選出。翌年4月の総選挙で第一党となったが、鳩山は公職追放された。

毎日新聞社

辻口文三

▼派閥の対立抱え日本社会党結党(11月2日)東京・日比谷公会堂で結党大会を開き、書記長に片山哲を選出。22年の総選挙で第一党となったが、左右両派の対立で片山内閣は、わずか8ヵ月で総辞職した。

共同通信社

アメリカ国防総省

毎日新聞社

▶無料のイモに長蛇の列(11月20日)大阪・梅田の阪急百貨店にサツマイモの無料進呈所ができたが、食糧難のためたちまちイモはなくなった。

▶裁かれるナチス高官(11月20日)西ドイツ・ニュルンベルクで国際軍事法廷が開かれ、ゲーリング、ヘス、リッベントロップら24人が起訴された。

PPS

▲ざんぎり頭の目立つ復員力士(11月16日)戦後初の大相撲が、天井の焼け落ちた東京・両国国技館で開幕し、10戦全勝の横綱羽黒山が優勝した。

▶無意味な破壊命令(11月24日)サイクロトロンは、原子爆弾の製造には役立たないものだったが、米軍は理化学研究所で破壊作業を始めた。

菊池俊吉

## 昭和20年11月

1(木)●日本国民党、東京で餓死対策国民大会を開く。
●三菱、社長の岩崎小弥太ら首脳総退陣を決定。

2(金)●日本社会党、結党大会。書記長に片山哲。

3(土)●新日本婦人同盟が結成大会。会長に市川房枝。

4(日)●上野で全国戦災者同盟の結成式。
●東京帝大で大内兵衛ら七教授の復職を決定。

5(月)●戦災復興院が発足。総裁に小林一三。

6(火)●GHQ、三井、三菱など四大財閥解体を指令。

7(水)●埼玉県熊谷東国民学校で、学童の帰農始まる。

8(木)●米国賠償委員会、日本国内資産の調査開始。

9(金)●日本自由党、結党大会。総裁に鳩山一郎。
●GHQ、映画脚本などの事前検閲撤廃を発表。

10(土)●歴史学研究会、国史検討座談会など活動再開。

11(日)●東久邇宮稔彦、敗戦で皇族待遇を辞退、と表明。

12(月)●第一回宝籤(10月29日発売)の抽選会を開く。

13(火)●天皇、伊勢神宮に参拝(11月20日、靖国神社)。

14(水)●小笠原商相、食糧輸入のため生糸などとのバーター貿易をGHQに申請。

15(木)●GHQ、東京劇場で上演中の歌舞伎「寺子屋」を、反民主的として中止命令。

16(金)●戦後初の大相撲秋場所、両国国技館で開幕。
●日本進歩党が結党大会。総裁に町田忠治。

17(土)●閣議、生鮮食料品の配給統制撤廃を決定する。
●三六年ぶりの凶作で供給米価が六割高に。

18(日)●GHQ、皇室財産を封鎖する覚書を発表。
●GHQ、民間航空と航空研究の禁止を指令。

19(月)●GHQ、日本映画二三六本を上映禁止にする。
●荒木貞夫・小磯国昭ら、戦犯として逮捕。

20(火)●陸軍病院で一般診療を開始(12月、一般病院に)。
●京都学生連盟結成(学生連合組織再建へ)。

21(水)●ラジオ「座談会」放送開始(後の「放送討論会」)。
●治安警察法が廃止される(明治33年制定)。

22(木)●近衛文麿、「帝国憲法改正要綱」を天皇に提出。
●閣議、自作農創設の農地制度改革要綱決定。

23(金)●神宮球場でプロ野球東西対抗戦が行われる。

24(土)●GHQ、理化学研究所仁科研究室などのサイクロトロンを破壊。原爆製造のためと誤解。

25(日)●GHQ、財政再編成の覚書を政府に手交。

26(月)●横綱・双葉山、協会に引退を届け出る。

27(火)●重要物資の価格統制撤廃。石炭は約四倍に。

28(水)●GHQ、日銀券発行の許可制に関する覚書。

29(木)●東京の戦災者に一枚約四〇円で、連合軍接収の毛布一一万二〇〇〇枚を支給、と新聞に。

30(金)●陸軍省・海軍省、廃止。第一、第二復員省に。



月刊沖縄社

▼ふえ続ける失業者(11月26日)人員整理や復員が進むにつれて失業問題が深刻化した。この日東神奈川駅前で行われた「米軍要員募集」には、多くの失業者が殺到した。

▲「ユーコンの叫び」公開(12月8日)昭和13年に日本が買い取って、そのままお蔵入りになっていた冒険もので、戦後初めて公開されたアメリカ映画となった。

影山光洋

▲廃墟の銀座に人の波(12月)空襲で焼け野原となった東京・銀座通りに闇市が進出した。露店の数は400軒以上。汁粉1杯10円、ドーナツ1個3円など食べ物が飛ぶように売れた。

▼横浜地裁で軍事裁判始まる(12月17日)捕虜や住民を虐待したとされるBC級を対象にしたもので、24年10月19日に終了するまでに1037人が裁かれ、51人が死刑となった。

共同通信社

▲公卿政治家、近衛文麿自殺(12月16日)戦争犯罪容疑で巣鴨拘置所に出頭命令を受けていた近衛は、出頭当日の朝、東京・荻窪の自宅で服毒自殺した。

▶天皇も戦犯名簿に(12月8日)東京・神田の共立講堂で、日本共産党など5団体主催の「戦争犯罪人追及人民大会」が開かれ、戦争責任回避の動きを批判。1000人余の戦犯名簿を発表した。

## 昭和20年12月

1(土)●サイパン島に隠れていた将兵四五名が投降。
●全日本教員組合、結成大会。委員長に賀川豊彦。

2(日)●GHQ、戦犯容疑で平沼騏一郎・広田弘毅ら五九名の逮捕を政府に指令。

3(月)●東大社研の世論調査で天皇制支持が七八%。

4(火)●閣議、女子大創設・大学男女共学などを決定。

5(水)●石炭不足で上越線の急行列車を一部運休。
●GHQ、日本証券取引所の活動を全面禁止。

6(木)●GHQ、近衛文麿・木戸幸一ら九名を一六日までに逮捕するよう政府に指令。

7(金)●マニラの米軍法委員会、山下奉文に死刑宣告。

8(土)●共産党などが戦争犯罪人追及人民大会開催。

9(日)●ラジオ新番組「真相はかうだ」の放送開始。

10(月)●GHQ、捕虜虐待容疑で五七名に逮捕命令。
●京成電鉄争議で、労組が無賃乗車戦術を開始。

11(火)●第一次読売争議、正力社長辞任などで解決。

12(水)●松戸市民が首相官邸まで、米三合要求のデモ。

13(木)●GHQ、失業者援護計画立案を政府に指令。

14(金)●元独秘密警察員、ニュルンベルク国際軍事裁判でユダヤ人虐殺は六〇〇万人以上と証言。
●政府、石炭不足解消のため石炭庁を設置する。

15(土)●GHQ、神道と国家の分離を政府に指令。
●上野で「狩りこみ」、浮浪者二五〇〇名を収容。

16(日)●戦犯容疑の近衛文麿、自宅で服毒自殺。

17(月)●日本で最初の戦犯裁判(BC級)、横浜で開廷。
●衆議院議員選挙法改正公布。女性参政権など。

18(火)●東海道本線辻堂駅で入れ替え中の貨車が爆発。死者八名、倒壊家屋四〇〇戸。

19(水)●満員の山手線電車で、背負われた乳児が圧死。

20(木)●国家総動員法などの廃止法公布(21年施行)。

21(金)●フィリピン弁護士会が、天皇を戦犯にと米大統領に要請した、と米弁護士会が発表。

22(土)●労働組合法公布。団結権と団交権を保障。

23(日)●東京鉄道局、占領軍輸送のため、東北本線と常磐線の二等車の切符発売を停止。

24(月)●GHQ、テレビや暗号通信などの研究を禁止。

25(火)●川崎市で二二工場の労組代表が大会開く。

26(水)●新劇合同初公演「桜の園」が東京有楽座で開幕。

27(木)●米英ソ外相会議、モスクワ宣言を発表。極東委員会・対日理事会の設置で合意する。

28(金)●高野岩三郎、改正憲法要綱(高野私案)発表。

29(土)●農地調整法改正公布(第一次農地改革)。

30(日)●新日本文学会、結成。中野重治、蔵原惟人ら。

31(月)●GHQ、修身や日本史の授業停止を指令。

# 俄楽多市

流行語

## GIが広めた「ハバ、ハバ」

アメリカ軍の占領とともに、世の中には洪水のように英語が氾濫した。「ハバ、ハバ」もそのひとつで、「急げ、早く」という意味である。もともとはハワイや南方諸島に住むカナカ族の言葉だが、アメリカの反撃が始まり、南方への進出が盛んになるにつれ、GIの間にスラング（俗語）として広がっていった。

ただし、日本ではそうは受け取られなかった。「パール・ハーバ－のハーバーがつまったもので、アメリカが真珠湾の恨みを忘れないために使っているのだ」という説も、まことしやかに伝えられたという。

**「モク拾い」**。投げ捨てられたシケモクを拾うことだが、普通はその道のプロをさす。彼らは先に針のついた棒で拾い集め、ほぐして巻き直し、再び売った。

**「輪タク」**。自転車の後ろか横に幌つきの客席を設けた乗りもの。敗戦直後の簡便な交通手段として庶民の人気を集めたが、時にはラブホテル代わりに使われることがあった。

▲焼け跡で営業する青空理髪店。

共同通信社

おしゃれ

## 口紅をつけてワイルド・パーティー

八月一五日は女性にとって、戦争中禁止されていたおしゃれを再開する日となった。当時二三歳の十返千鶴子（後に社会評論家）は、玉音放送を聞いて胸いっぱいの解放感を味わった。そこでさっそく「もんぺをかなぐり捨て、花模様のワンピースに着替えて外出した」という。

また編集者で、会社ぐるみ長野県に疎開していた戸塚文子もこう記している。

「禁止されていた赤い服や口紅をつけ、その夜はあかあかと電灯をつけて一同でワイルド・パーティーをやり、ジャズソングのあらん限りを歌って痛飲しました」

（『日本終戦史』〈中〉読売新聞社）

ブーム

## 進駐軍兵士に大人気、戦後初の生け花展

一一月一五日から東京・神田で草月流の勅使河原蒼風と小原流の小原豊雲により、戦後初の生け花展が開かれた。最初、この話を持ちかけられた二人は、見向きもしなかった。「誰もが食べていくだけで精一杯の時に、生け花なんか見に来るはずがない」というわけである。

しかし結果は、思いがけない大成功を収めた。特に進駐軍の兵士たちの間で意外なほどの人気を集めて、会場の半分がGIで埋めつくされてしまう日もあったという。これをきっかけにして、日本全国ですさまじいほどの、生け花ブームが起こった。

（『戦後世相・流行史』松風書院）

CM100年



ポスター「一等 一〇万円、副賞に純綿生地がつく！」——第一回宝くじ（政府発行）

◀昭和二〇年一一月に刊行された、横山隆一作『フクチャンマンガ』。

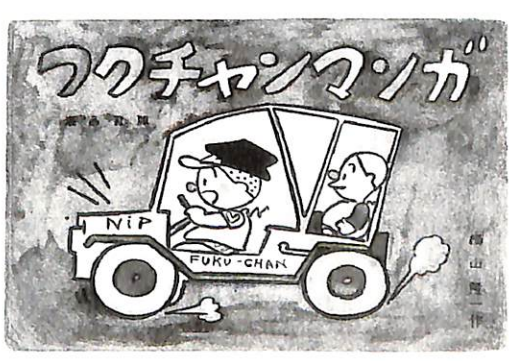
漫画社

データ

## 日本一の大地主は、岡山県の藤田男爵

五町歩以上の土地の所有者を、農林省が調べたものによると、全国で一〇〇〇町歩以上の大地主は二五人いる。

①藤田光一男爵（岡山県）…八〇〇〇町歩、②信成合資会社（山形県＝本間の殿様）…七五〇町歩、③市場福厚（新潟県）…一四八町歩、④伊藤文吉（同）…一四六町歩、⑤白瀬正樹（同）…一〇〇町歩、⑥田巻堅太郎（同）…一〇〇町歩、⑥開戸猪六（三重県）…一〇〇町歩。

（「朝日新聞」一二月一四日）

三面記事

## 賭場で聞いた玉音放送

八月一五日の敗戦を、後の山口組三代目・田岡一雄（襲名は昭和二一年夏）は、神戸の賭場で知った。

「私は昼前から賭場にいた。みんなゲートル姿で鉄カブトを背負い、張った張ったと金のやりとりが続いている。厳重な灯火管制と夜間爆撃とで、各賭場は昼間開帳されることが多かった。正午、天皇の重大放送があるというので、みんな正座してラジオを囲んだ。

……ポツダム宣言受諾の放送に、賭場は悲痛な虚無状態に襲われた。のっそりと一人が帰り始めると、各自も家路をたどっていく。みんな黙々と賭場から姿を消していった。誰もいなくなった賭場は、散乱した花札だけがわびしかった」（『山口組三代目田岡一雄自伝』徳間書店）

## 闇市の酒は、金魚も泳げるほど薄かった

闇市が東京で始まったのは、敗戦から三日目の八月一八日、新宿を本拠とする露天商の関東尾津組が「光は新宿より」というスローガンを掲げて店開きしたのが第一号である。開店した時の店数は一二、それが一年たらずで五万八〇〇〇店にふくれあがった。大阪では九月、鶴橋に蒸しパンやサツマイモを売る店が三、四店登場し、一ヵ月後には府下全体で三〇〇〇店にふえた。

闇市には酒屋、うどん屋も店開きしていたが、そこで売るものは金魚酒、三味線うどんと呼ばれた。金魚が泳げるほど薄く、うどんが三味線の弦のように三本しか入っていないという意味である。好評だったのが一杯一〇円の残飯シチュー。残飯を集めてドラム缶に放りこみ、煮こんだものである。なかば腐りかけたものも含まれていて、すえた臭いがしたが、それでもごちそうの部類だった。中からコンドームが出てきたこともあったが、そんなことはいちいち気にしていられなかった。

（『東京闇市興亡史』草風社）

美女倶楽部　伴田良輔・選

福田勝治

終戦前後の年は、写真の数がほかの年に比べて少ない。女性たちも疲れはてていたに違いない。そうした中、福田勝治のこの作品は、遠くを見る美しい眼をした女性の上半身を、希望と祈りをこめてとらえている。

## 敗戦後に防空壕建設、あきれたお役所仕事

〔秋田発〕秋田市土木課では戦争終結後の八月二四日から市内の道路に、新たに掩蓋式防空壕の建設に着工、そのうちの一ヵ所は町内会の畑までつぶして同月末に完成した。市民の間であがっている非難に対し、土木課では戦争終結により不必要であるが契約した業者に気の毒であり、また国庫補助の処理や書類整理にもさしつかえるので建設することにしたと弁明している。

（「朝日新聞」九月八日）

◀戦時中から戦後にかけて、家庭で玄米を精白するのに使われた米つきびん。

## お灸をすえると、原爆症に奇跡的な効果が!?

〔広島発〕広島県佐伯郡に住む鍼灸師・堤真人氏は、原爆による罹災者に対して治療をほどこし、奇跡的な効能をあげていることが判明した。数十人の患者のうち全治者三人、全治疑いなしと思われるもの四人、快方に向かいつつある患者は残り全部。重症者で熱が四〇度以上あり、頭髪が抜け、斑点の現れた四、五人も全員快方に向かいつつある。

（「中国新聞」九月八日）

セックス

## 日比谷公園で、風紀紊乱調査をしてみると

敗戦直後の一一月、丸の内署が外国人目あてに日比谷公園に集まってくる女性の調査を行った。それによると、同公園で外国人に群がる女性には、三つの型があることがわかった。

昼の部は性の好奇心にかられた女学生で、夕の部は仕事から解放された女事務員が主、夜の部となるとその道専門の商売女が、これはすごい数。そしてその間に「英会話習得のため」と言いつつ男をあさるダンサーがいて、その総数は少なく見積もっても一日に二〇〇〇人以上に達した。

（「人間探究」昭和二五年四月号）

この年の初もの

## ハムやソーセージを使って握った西洋ずし

●**ティーバッグ**　占領軍用が上野の闇市に流れた。

●**ぬくもり屋**　大阪駅前に登場。体が暖まるくらいで五〇銭、飯盒で飯たき二円、ひと晩中暖をとれば一〇円。

▼占領軍慰安キャバレー、銀座にオープン。

共同通信社

世界の動き

# 日本に無条件降伏を！ポツダム宣言と米ソ冷戦の始まり

●米英ソ3巨頭によるポツダム会談が始まる。この時点で日本に宣戦布告していなかったソ連は、オブザーバーとして参加。宣言は米英中3国によって発せられた。

PPS

この年の七月一七日、トルーマン、チャーチル、スターリンの米英ソ三巨頭がベルリン郊外のポツダムで会談。ドイツ占領と日本の戦後処理問題について話し合った。同月二六日、米英中三国による対日ポツダム宣言が発せられたが、合意にいたるまで、互いに勢力拡大を狙う米ソの対立が表面化し、会談は難航した。

## 原爆投下によって、ソ連参戦は阻止できる

ポツダム会談が始まる五ヵ月前、やはり米英ソの連合国首脳はヤルタで会談を行っていた。目的は、戦争を決定的な段階に追いこむ戦略を立てることと、敗戦国に対する戦後処理について大枠で合意すること。そして、ソ連の対日宣戦布告の約束を一刻も早く取り付けることだった。

この時、米ソの間では、ドイツが降伏してから三ヵ月以内にソ連が対日戦線に参加するとの密約が交わされた。その見返りとして、ソ連にアジア北東部のいくつかの島、満州鉄道の権利、そして朝鮮の一部を統治する権利などが認められた。

もし、日本本土上陸作戦をとれば米軍から一〇〇万人以上の犠牲者を出すと予想されていたからだ。アメリカにとっては、同盟国ソ連を対日戦線に引きこみ、アジアに第二戦線を形成する必要があったのである。

四月三〇日、ヒトラーが自決する。その七日後、ドイツ軍は無条件降伏し、ヨーロッパ戦線は終結した。かくして七月一七日、ポツダムに三巨頭が集まった。まだ日本に宣戦布告していなかったソ連はオブザーバーとして参加するという形をとり、また、会談中に行われた英国の総選挙で保守党が敗北したため、二四日からチャーチルに代わってアトリー新首相が参加するというハプニングもあった。

ポツダムでの会談は翌月二日まで続けられたが、アメリカの姿勢に変化が生じていた。先のヤルタ会談の時点では、一刻も早いソ連の対日戦線参加を望んでいたアメリカだったが、ドイツ降伏後、ドイツ分割を含んだヨーロッパの勢力範囲の画定をめぐってソ連との対立が表面化。この対立をアジアに持ちこめば、日本をソ連と分割し合うような事態にもなりかねなかった。そうなれば、朝鮮もまたソ連と分割統治ということになる。

かねてからアジアへの進出をめざしてきたアメリカとしては、アジアにおけるソ連の勢力拡大は望むところではなかった。この時点でアメリカにとって、ソ連が対日宣戦布告をする前に、日本を降伏させることが国益となっていたのである。そのための秘密兵器、原爆の実験が七月一六日に成功していた。原爆投下によって日本が降伏すれば、ソ連参戦は阻止できる……。

## ソ連が対日宣戦布告の大義名分とした鈴木答弁

七月二六日、米英中三国による対日ポツダム宣言が発せられた。宣言は、軍国主義の除去、国土占領、領土削減、軍隊の武装解除、戦争犯罪人の処罰などを提示。無条件降伏により国際社会の一員に復帰せよというものだった。

ただし、「国体の護持」については宣言には直接言及されていなかった。そのため外務省はポツダム宣言受諾の方向でまとまり、ソ連を介しての和平工作のため特使として近衛文麿（このえふみまろ）元首相を派遣するむねソ連政府に打診してもいた。だが、本土決戦の準備を進める軍部を説得するまでにはいたらなかった。

こうした混迷の中で、鈴木貫太郎（かんたろう）首相が新聞記者との会見の際、ポツダム宣言について「重大なものとは考えていないので黙殺している」という趣旨の答弁を行った。これがニュアンスを変えて海外に打電され、結果的にソ連の対日宣戦布告の大義名分とされることになった。

この時の経緯は、『目撃者が語る昭和史』第八巻（新人物往来社刊）におさめられた元鈴木内閣書記官長・迫水久常（さこみずひさつね）氏の「ポツダム宣言受諾の苦悶」という一文の中でこう書かれている。

「黙殺するというのは、要するにノーコメントという意味であったが、日本よりの海外放送には『イグノア（無視する）』という訳字が使用せられ、外国新聞の見出しには、故意か偶然か『リジェクト（拒否する）』という文字が使用されたのである。後日、ソ連は対日宣戦布告に当たって、日本はポツダム宣言をリジェクトしたので、仲裁の基礎が失われたという趣旨のことを述べ、このポツダム宣言に関する我が国の態度をその理不尽きわまるべき対日戦の理由に逆用している」

毎日新聞社

▲8月14日午後7時、ホワイトハウスで日本のポツダム宣言受諾を発表するトルーマン大統領。このニュースにアメリカ中が熱狂、各地で勝利を祝う紙吹雪が舞った。

▶ポツダム会談の5ヵ月前、ヤルタに集まった3巨頭。左からチャーチル、ルーズベルト、スターリン。この会談で、ソ連の対日参戦が秘密裏に取り決められた。

PPS

外から見たNIPPON

# 医療物資をたずさえて広島入り ジュノーが見た「灰色の光景」

―― 佐伯 修

丸山幹正氏提供

▶北朝鮮帰還問題のため、一九五九年にも来日。

「九月一日になって初めて外務省は私に、原爆炸裂後の広島の写真数枚を見せた。あれこれと想像していたにも拘らず、荒涼たる灰色の光景には慄然たるものがあった。灼熱の灰と燃えたぎる溶岩の中で、ティムガドやポンペイの人々が苦痛の絶叫を上げて死んでいったのは遠い昔のことである。しかしここに同じ光景が再現されたのだ」(丸山幹正氏訳)

第二次世界大戦の終結を目前にした昭和二〇年八月九日、国際赤十字から、おもに連合軍捕虜の待遇を視察する任務を受けて派遣された、中立国スイスの医師、マルセル・ジュノーは、羽田に降り立った。この日、長崎に原爆が投下され、六日後、日本は無条件降伏する。

ジュノー一行がイランのテヘランを出発したのは七月四日。激戦地スターリングラードの上空を通過し、対日開戦の囁かれる極東シベリアを経て、間もなく地上から消滅する「満州国」に入り、さらに空襲下の日本へ飛ぶ。ちなみに、広島に原爆が落ちた八月六日、彼は「満州国」四平街近郊の捕虜収容所で、ウェンライト、パーシバルら囚われの将星たちが、階級が下の日本軍人に最敬礼させられる屈辱的光景を目撃している。一九四七年に刊行された彼の回想録(『ドクター・ジュノーの戦い』勁草書房)に綴られたその旅は、まさに冒険活劇だ。

東京で終戦を迎えたジュノーたちの最大の関心事は、人類最初の核攻撃を受けた広島、長崎の被害状況だった。しかし、厳重な箝口令を布く米軍関係者からはまともな情報は得られず、わずかに、日本の庶民たちの「口承による情報」から実情を推測するほかなかったという。

被爆地の写真を初めて見せられた翌日、広島入りをはたしたスタッフの一人から詳しい報告を受けたジュノーは、マッカーサーたちに広島の写真を突きつけて、一五トンの医療物資の提供を取り付け、九月九日、それらをたずさえて広島に到着する。物資の中には、当時の新薬であるペニシリンや各種のスルファミン、便利な乾燥血漿などが含まれており、「極限の苦しみ」の中にあった負傷者たちの治療に、益するところ大だったという。

マルセル・ジュノー(一九〇四―一九六一)は、敬虔なプロテスタントの家庭に育ち、コンラッドの冒険小説とペットのトカゲを愛した。長じて広島のほかエチオピア、スペインなど、二〇世紀前半の戦禍の地に医療物資をたずさえて飛んだ。

▲9月14日、靖国神社での秘密会議を終えた鈴木貫太郎元首相。

PPS

一刻も早い日本の無条件降伏を望んでいたアメリカは、ポツダム会談が終了してわずか四日後の八月六日午前、広島に原子爆弾を投下。その三日後、長崎にも投下した。だが長崎に原爆が投下される前日、ソ連は日本に宣戦布告。日本が占領していた満州(中国東北部)国境を越えて進撃し、アジアにおける勢力を拡大した。

八月一四日、天皇は御前会議でポツダム宣言受諾の意志を表明。これによってアメリカは、ソ連軍の占領地域拡大にくさびを打ちこみ、日本を単独占領することになった。以降、冷戦時代から現在まで、日米は緊密な関係を続けている。

国際政治論の猪口邦子上智大学教授はこう語る。

「現在日本とアメリカは世界経済のナンバーワンとツーであり、協力関係を結んでいる。しかし、歴史は消すことができない。永久的に戦勝国と敗戦国であり、占領者と被占領者であったことを忘れることができないのが今日の日米関係です。安保、行政協定、日米地位協定など、問題の残る協定が結ばれ、その後なかなか改正がむずかしいのは、こういった立場が影響しているのはたしかです。この日米関係は、当分は複眼的な形で続いていくことは間違いないでしょう」

ポツダムの呪縛は今も解けていない。

**トルーマン**(1884〜1972)合衆国第三三代大統領。戦後アメリカの内政、外交を指導した。

**スターリン**(1879〜1953)ソ連邦共産党書記長。全権を握り、ソ連型社会主義の基礎を作る。

**チャーチル**(1874〜1965)英国の政治家。第二次大戦勃発後、首相として戦争を勝利に導く。

白川一郎画　鈴木貫太郎記念館提供

▶八月九日深夜の御前会議。翌一〇日未明、天皇制、国体護持を条件にポツダム宣言受諾を決定。

# 往きて還らぬ

共同通信社

▲5月6日　15世市村羽左衛門(71)
歌舞伎俳優。江戸三座のひとつ「市村座」の15代目座元で、時代物や世話物の名人として知られた。

▲1月27日　野口雨情(62)
詩人。民謡・童謡作家としても知られ、素朴で田園情緒に富んだ作品を作った。代表作は「波浮の港」。

▼2月24日　河口慧海(79)
探検家。仏教の原典を求めて日本人として初めてチベットを訪問。"チベット学の祖"といわれた(前列中央)。

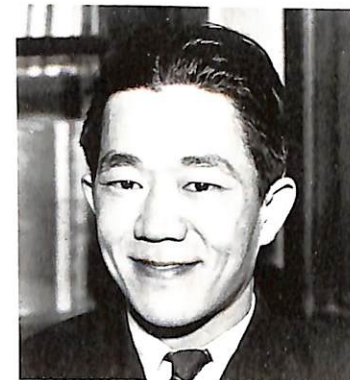
◀9月26日　ベラ・バルトーク(64)
ハンガリーの作曲家。自国の民謡を収集、研究して、民族性豊かな曲を多く残した。1940年アメリカに亡命。

共同通信社

▲9月26日　三木清(48)
哲学者、評論家。マルクス主義哲学から親鸞の研究など幅広い活動を行う。共産党員をかくまって入獄中、死亡。

▲7月20日　ポール・ヴァレリー(73)
仏詩人、批評家。1917年に『若きパルク』を発表。知性派詩人としての名声を得る。ほかに『魅惑』『固定観念』。

共同通信社

▲10月9日　薄田泣菫(68)
詩人、随筆家。詩集『暮笛集』で、わが国初のソネット形式による詩作を試みた。ほかに『白羊宮』など。

▲8月16日　丸山定夫(44)
俳優。個性的な風貌と豊かな感受性による舞台演技で人気を得ていたが、広島で慰問巡演中、被爆死。

▲10月14日　本居長世(60)
童謡作曲家。「十五夜お月さん」「七つの子」など日本的なメロディーによる多くの愛唱歌を生んだ。

▲8月18日　チャンドラ・ボース(48)
インド独立運動の指導者。1943年亡命先のドイツから潜水艦で来日し、世界の話題となった。

▲6月7日　西田幾多郎(75)
哲学者。「西田哲学」の祖で、1911年、代表作『善の研究』を刊行。日本的な「無」の哲学を説いた。

▲4月16日　田村俊子(60)
小説家。行動的な女性として知られ、『木乃伊の口紅』『女作者』などで女性解放や女性の濃厚な官能を描いた。

# 「日録20世紀」20号までの刊行スケジュール

(毎週火曜日発売。変更になる場合もあります。なお、刊行日は首都圏基準です)

**創刊号**(2月18日号)1959[昭和34年]
好評発売中●世紀のご成婚!●巨大「伊勢湾台風」の猛威●マイカー元年!わが家に車がやって来た●フルシチョフ首相の"歴史的"訪米

**第2号**(2月25日号)1964[昭和39年]
好評発売中●東京オリンピック開催!●新潟地震と産業都市のもろさ●新幹線「ひかり」、4時間で走る●米キング牧師にノーベル平和賞

**第3号**(3月4日号)1945[昭和20年]
好評発売中●マッカーサーの2000日●広島と長崎に原爆!死者は31万人●8月15日の「天皇と国民」●ポツダム宣言と米ソ冷戦の始まり

**次 号**(3月11日号)1970[昭和45年]
2月25日発売●三島由紀夫、割腹自殺!● EXPO '70で日本も大国の仲間入り●「よど号」ハイジャック●ウーマン・リブ、全米で10万人デモ

**第5号**(3月18日号)1963[昭和38年]
3月4日発売●ケネディ暗殺事件!●「水俣病とチッソ」に決定的証拠●ホンダ車などオートバイ世界一に●えん罪晴れた"昭和の巌窟王"

**第6号**(3月25日号)1958[昭和33年]
3月11日発売●巨人軍・長嶋茂雄デビュー!●若者にロカビリー旋風●流通革命!スーパー・ダイエー1号店●ド・ゴール、仏大統領に就任

**第7号**(4月1日号)1972[昭和47年]3月18日発売●連合赤軍「浅間山荘」事件●日中国交回復の"乾杯!"●27年ぶりに沖縄が日本に還る●テルアビブとミュンヘン五輪の流血

**第8号**(4月8日号)1980[昭和55年]3月25日発売●山口百恵が引退!●ついに日本車の生産台数が世界一に●衝撃の金属バット殺人事件と家庭内暴力●韓国光州事件の真相

**第9号**(4月15日号)1976[昭和51年]
4月1日発売●角栄逮捕!政界に激震●山下家に五つ子ちゃん誕生●サービス革命!「クロネコ」走る●毛・周死去、文革がようやく終わる

**第10号**(4月22日号)1989[平成元年]
4月8日発売●昭和天皇ご大喪!●吉野ケ里発掘と邪馬台国論争●消費税3パーセント、混乱と不安のスタート●中国で天安門広場の惨劇

▶**第11号**(4月29日号)1960[昭和35年]**4月15日発売**
"安保"で国内騒然●所得倍増計画発表●清張ブーム●アフリカ独立国続出
▶**第12号**(5月6日号)1961[昭和36年]**4月22日発売**
ケネディ、大統領就任●「金の卵」大モテ●アンネ発売●朴正熙、権力の座に
▶**第13号**(5月13・20日号)1962[昭和37年]**4月28日発売**
「無責任男」大人気●東京が1000万都市に●YS11が翔ぶ●キューバ危機
▶**第14号**(5月27日号)1965[昭和40年]**5月13日発売**
沖縄とベトナム戦争●日韓基本条約可決●ジャルパックに人気●北爆開始
▶**第15号**(6月3日号)1966[昭和41年]**5月20日発売**
ビートルズ来日●航空機事故が相次ぐ●巨大タンカー登場●中国で文革

▶**第16号**(6月10日号)1967[昭和42年]**5月27日発売**
ツイッギー来日●美濃部都政スタート●公害列島ニッポン●初の心臓移植
▶**第17号**(6月17日号)1968[昭和43年]**6月3日発売**
日大紛争と全共闘●若者と「あしたのジョー」●3億円事件●プラハの春
▶**第18号**(6月24日号)1969[昭和44年]**6月10日発売**
日本、GNP世界2位●安田講堂攻防戦●「男はつらいよ」●アポロ、月に
▶**第19号**(7月1日号)1941[昭和16年]**6月17日発売**
真珠湾攻撃●ゾルゲ逮捕●李香蘭、日劇で歌謡ショー●独ソ戦が始まる
▶**第20号**(7月8日号)1942[昭和17年]**6月24日発売**
ミッドウェー海戦●朝鮮人ら強制連行●在米日系人の運命●ユダヤ人虐殺

**●創刊号は、特価290円。第2号から第8号は、定価550円、第9号(4月発売号)からは定価560円です。**
●バックナンバーは、お近くの書店でお求めください。直接弊社にご注文の場合は、冊数に関係なく、送料200円のご負担となります。なお、代金と送料は先にお送りください。申込先　講談社読者サービス係　電話03-5395-3676
(1997年2月現在)



# ミニ事典

## 1945年のキーワード

**玄作戦**
敵艦隊、あるいは艦隊が停泊している前進基地に潜水艦で近づき、積載している人間魚雷の「回天」で体当たり攻撃しようとした海軍の作戦。前年一一月二〇日に続いて、この年一月一二日に第二次作戦が決行され、ニューギニアのアドミラルティ諸島などに停泊中の米艦船を攻撃した。

**国民勤労動員令**
本土決戦に備え、国民徴用令・女子挺身勤労令・国民勤労報国令・労務調整令・学校卒業者使用制限令の五勅令を統合・強化して、三月六日に発された勅令。老若男女の区別なく、決戦時の要員確保のために根こそぎ動員をめざすものだった。

毎日新聞社

▲菊水作戦の特攻機を見送る。鹿児島県知覧基地で。

**無差別爆撃**
アメリカ軍が日本の大都市に対して行った、B29による爆撃対象を限定しない攻撃。B29による本土空襲は昭和一九年六月一六日から始まったが、この時は北九州市をはじめ、いずれも高々度精密爆撃によって軍事施設や軍需工場を破壊するものだった。ところがこの年三月からは焼夷弾による低空爆撃によって住宅地を含めた無差別爆撃に変わった。

**菊水作戦**
沖縄に上陸したアメリカ軍に対し、日本海軍が行った最大規模の航空作戦。四月六日に一号作戦を発動、アメリカ軍使用の沖縄北・中飛行場に向けて特攻機を発進させた。しかし、以降六月二二日まで一〇次にわたって作戦を実施したものの、機材の不良、練度の低下などを暴露し、企図どおりの成果は得られなかった。

▲木戸幸一。第1次近衛内閣の文相、厚相、平沼内閣の内大臣、内相などを歴任。

**時局収拾対策試案**
木戸幸一内大臣が、中立国のソ連に仲介を依頼して実現しようとした終戦工作案。この年、六月九日に天皇に内奏。政治家が終戦を考えるべきだとの木戸の考えにそい、近衛文麿を特使としてソ連に派遣することになったが、結局、ソ連の受け入れ拒否で頓挫した。

**一億特攻・一億玉砕**
本土決戦の戦意をあおるために使われた合い言葉。敗色が濃厚になった六月中旬頃から、これらの言葉が新聞紙面をにぎわすようになった。一億特攻とは、日本人一人一人が特攻精神で敵と刺し違えようという意味。一億玉砕について正木ひろしは、全滅の覚悟で戦うというのは「必勝の信念」と矛盾すると批判した。

**木製飛行機**
アルミニウム不足を補うために機体の一部を木材で代替した飛行機。七月に翼・胴体・尾部あるいはプロペラに木材を使ったものが、日本楽器製造などによって量産された。その多くが特攻機に使われ、特攻専用機「剣」は有名である。

**国体護持**
天皇統治の観念を中核とした国のあり方(国体)を守り、保持しようとすること。昭和一二年に文部省は神勅に基づく国体が日本の歴史を貫いて顕現しているとする国体論を唱え、以降、軍部ファシズム体制の根本理念になった。八月一四日の御前会議ではこの国体護持を事実上放棄し、ポツダム宣言受諾が決定された。

**一億総ざんげ**
八月一七日に皇族内閣の首班となった東久邇宮稔彦が記者会見で「全国民総ざんげをすることが、わが国再建の第一歩であり、わが国内団結の第一歩である」と語ったのをマスコミが取り上げ、流行した。戦争責任追及の圧力が強まってくると、天皇の責任回避、国民に戦争責任を押しつけるものとして不評をかった。

**軍政**
戦争や内乱などの際、軍隊が占領地を直接統治すること。四月一日のニミッツ布告によって沖縄では被占領側の政府の存在は認めないとされ、連合国軍が直接統治する軍政が敷かれた(後、民政に移管)。一方、本土は日本政府を通じて連合国軍が間接統治する民政が敷かれた。

**ポツダム勅令**
超法規的強制力を持つ連合軍の命令を実行するために日本政府が定めた多数の緊急勅令(日本国憲法施行後は政令)。九月二〇日公布の「ポツダム宣言ノ受諾ニ伴ヒ発スル命令ニ関スル件」が根拠法規。講和条約発効にともなって廃止されたが、その間、公職追放令・団体等規制令・警察予備隊令や財閥解体の諸政令など、その数は五二〇件にもなった。

共同通信社

▲造兵廠から摘発した隠匿物資の配給風景。

**隠匿物資**
敗戦の混乱に乗じて、政府・軍部・軍需会社が隠した軍需物資。食糧、日用品から貴金属まで膨大な量におよんだ。九月末に青森で人民糾察隊が結成されたのをはじめ、国民の間から放出を要求する摘発運動が起こったが、そのほとんどはブローカーなどを通じて闇から闇へ流れた。

**復員省**
陸軍省・海軍省の廃止にともない、軍隊の復員事務と軍解体後の残務整理を行った行政機関。一二月一日設置。はじめ第一(陸軍)と第二(海軍)があったが、昭和二一年六月に復員庁に統括、二二年八月までに、外地に進駐していた陸・海軍軍人約八一万人を復員させた。

**不在地主**
土地所有地に居住していない地主。一二月二九日に改正農地調整法が公布されたが(第一次農地改革)、そこで在村地主の五町歩を超える小作地と不在地主の全小作地が小作人に強制譲渡されると定められた。農地改革直前までに不在地主が所有していた土地は北海道で五二パーセント、その他の地方でも一八パーセントにのぼっていた。

週刊YEAR BOOK／日録20世紀 1945

CONTENTS




●編集
講談社総合編纂局
アート・ディレクター　山口至剛
表紙デザイン　山口至剛デザイン室＋渡邉裕二
本文レイアウト　デザイン・オフィス八起き
編集協力　有エービーシープレス　株カマル社　シド・プロ
有マックス　有マライカ　鍵和田良輔　小松邦宏　張替政展
藤森雅弘　結城順一　吉田忠正

●写真協力
アルフレッド・アイゼンシュテット　影山光洋　川上今朝太郎　菊池俊吉　岸田貞宜　小柳次一　辻口文三　並木路子　平野美津子　福田勝治　松尾忠男　丸山幹正　山端庸介　吉田潤
朝日新聞社　インペリアル・プレス　オリオン・プレス　河北新報社
共同通信社　月刊沖縄社　ノーボスチ通信社　福島民報社　PPS
毎日新聞社　漫画社　無明舎出版　LIFE　WWP
日本コロムビア　松竹　大映　文学座
アメリカ国防総省　NHK放送博物館　鈴木貫太郎記念館　東京空襲を記録する会

雑誌 23701-3/4
Ⓛ-2001/1/1
T1023701030557


印刷 凸版印刷株式会社 製本 本村製本株式会社